

中学校 地理046-72『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』

令和7(2025)年度版
内容解説資料

「教科書発行者行動規範」に
則った資料です。



中学校社会科Web
もご覧ください。

文部科学省検定済教科書

46 帝国

地理 046-72

中学校社会科用



社会科
中学生の
地理

世界の姿と日本の国土

**地域の特色を捉え、
持続可能な社会の実現に向けて
考えられる教科書**

帝国書院



↑p.64 アルプス山脈を走る登山列車（スイス、インターラーケン近郊、2020年6月）



↑p.235 日本最大級のショッピングセンター（埼玉県越谷市）

世界の地域理解から “異文化理解”が深まる

↓p.31 スコールのなかを歩く人々（インドネシア、ジャカルタ、11月）



日本の地域理解から “国土理解”が深まる

↓p.200 姫路城（兵庫県姫路市、2022年4月）





↑p.30 田植えをする人々（インドネシア、バリ島、2023年1月）

本資料のもくじ

特色 1	人々の暮らしが見える写真とイラスト地図	5
	興味・関心を喚起する「写真で眺める」	5
	地方の魅力を伝えるイラスト地図	9
	「地理的な見方・考え方」を働かせる写真	11
特色 2	地域の特徴を確実に理解できる地誌の展開	13
	着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」	13
	着実に深まる国土理解「日本の諸地域」	19
	世界と日本の諸地域学習の「序説」	27
特色 3	「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成	29
	見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援	29
	対話を通して学びを深める「アクティブ地理」	37
特色 4	「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫	41
	SDGsに関する具体的な地域事例を多数掲載	41
特色 5	「個別最適な学び」を支援するコンテンツ	45
	一人一台端末で活用できるQRコンテンツ	45
その他の特色	「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫	49
社会科3分野共通の特色／サポート／特色一覧		
社会科3分野共通の特色	①3分野の連携を図った10のポイント	53
	②学習がより深まる他分野および地図帳との連携 ～「未来に向けて」を活用して～	55
サポート	①インクルーシブ教育への対応	57
	②教師用指導書	59
	③デジタル教科書・教材	61
特色一覧	①教育基本法との対応	63
	②検討の観点から見た内容の特色	65
	『社会科 中学生の地理』の全体構成(もくじ)	69
	『社会科 中学生の地理』著作関係者	70

※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

『社会科 中学生の地理』に込めた想い

異文化理解・国土理解から“深い学び”につながる教科書を目指して

著作者代表 東京学芸大学 名誉教授 加賀美雅弘
帝国書院 編集部

中学校の地理的分野の学習にあたっては、まず、世界や日本のさまざまな文化に触れてほしいと考えています。その際、地球上に暮らす人々が、各地でそれぞれの工夫や努力を重ね、その土地に根ざした暮らしを営んでいる様子に目を向けてもらいたいと思っています。その上で、「地理的な見方・考え方」を働かせながら、自然環境・文化・産業などを多面的に見ることで、それぞれの地域の特徴を理解することを目指しています。

本書では、地域の特徴を理解することで、地域と地域間の相互関係や、グローバル化によって起こっている地域の変化についての理解が深められるほか、将来に向けて、よりよい地域のあり方について考える力が身に付くようになっていきます。また、深刻な自然災害や社会の課題に対して、どのような対策が必要なのか考察できるように編集しています。

本書を通して学ぶことで、中学生の皆さんには、異文化理解や国土理解を深め、地域の課題を「自分ごと」として捉え、解決への道筋を主体的に考える「社会参画の意識」を育んでほしいと、私たちは願っています。

人々の暮らしが見える写真とイラスト地図

興味・関心を喚起する「写真で眺める」

第2部第2章「世界の諸地域」と第3部第3章「日本の諸地域」の導入「写真で眺める」では、地域の姿を実感できる、大きく鮮やかな写真を掲載しています。学習する地域の様子をつかみ、興味・関心を高めて、意欲的に学びに向かえるようにしています。

p.64-65

写真で眺める
ヨーロッパ州



↑1 アルプス山脈を走る登山列車(スイス、インターラーケン近郊、2020年6月) 列車で移動しながらアルプス山脈の雄大な景色を楽しむことができます。 p.66

↓2 歴史的な建造物がみられる町並み(イギリス、ロンドン、2015年) p.68、76



↑3 国境を挟んでつづぐ旅行者(ベルギー・オランダ、2015年) p.70



二人の間にある地面の印は何か?



地図帳活用
ヨーロッパ州の鳥瞰図を眺めよう。



ヨーロッパ州には、歴史のある建物がたくさんあって、観光名所になっている所が多いんだね。

→5 モーゼル川のそばに立つ古城(ドイツ、コブレンツ近郊、2018年) モーゼル川は、フランスやルクセンブルク、ドイツを流れる国際河川で、川沿いには古城や古くから栄えた町が点在しています p.66

原寸大



↑4 氷河に削られた深い谷に海水が入り込んだフィヨルド(ノルウェー、オーレスン近郊、2018年7月) p.66



↑6 地中海のティエラ(サントリーニ)島を訪れる観光客(ギリシャ、2017年7月) p.67

ヨーロッパ州の学習を見通そう p.79の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺めるヨーロッパ州」をつくらう
この節では、特に写真3にみられるような「国どうしの結びつきの強まり」を主題に、ヨーロッパ州がどのような特色をもつ地域なのか、学習していこう。



見通しスライド

人々の暮らしが見える写真とイラスト地図

興味・関心を喚起する「写真で眺める」

ポイント

写真は右に示した観点で選定しています

- ① 人々の暮らしが見える写真
- ② その後の学習内容に直結する写真
- ③ 新鮮な驚きを生み出す写真
- ④ 特色ある自然や産業などを捉えた写真
- ⑤ 有名な観光地の写真

地域の姿が見えてきます

p.200-201

写真で眺める 近畿地方



原寸大



↑1 面積が日本一の湖、琵琶湖 (滋賀県大津市、2020年) 琵琶湖の水は、瀬田川、宇治川、淀川と流れ、大阪湾へと注ぎます。 p.202、205

琵琶湖の水は、どんなことに利用されているのかな？



↑5 観光客でにぎわう清水寺の山門(京都府京都市、2016年5月) 着物を着て、観光名所をめぐる観光客が増えています。 p.208

↑2 姫路城(兵庫県姫路市、2022年4月) 日本で最初の世界文化遺産に登録された姫路城には、国内外から多くの観光客が訪れます。 p.209



↑3 西洋風の建物を観光する人々(兵庫県神戸市、2022年) この建物は、明治時代に神戸を拠点に貿易を営んでいた外国人の家でした。 p.202、204



←4 奈良の伝統行事の一つである若草山の山焼き(奈良県奈良市、2017年1月) 写真手前は興福寺五重塔です。 p.209



↑6 遊歩道が整備された道頓堀川と観光客を乗せた観光遊覧船(大阪府大阪市、2018年) p.202、204

ビルが立ち並ぶ街のなかに、遊覧船が通れる川があるんだね！



←7 真珠の養殖(三重県志摩市) p.202、211

近畿地方の学習を見通そう

p.213の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める近畿地方」をつくろう

この節では、写真①～⑦のような近畿地方の様子が、特に「環境保全」の視点とどのように関係しているのかを中心に考えていこう。



見直しスライド

人々の暮らしが見える写真とイラスト地図

地方の魅力を伝えるイラスト地図

第3部第3章「日本の諸地域」冒頭は、親しみやすいイラスト地図で、各地域の特色を端的に捉えられるようにしています。

↓p.199、233

原寸大

近畿地方



地図クイズなど



大阪の道頓堀川 (大阪府)



琵琶湖の展望台 (滋賀県)



京都の祇園祭 (京都府)



伊勢神宮 (三重県)



神戸港 (兵庫県)



梅の収穫 (和歌山県)



東大寺の大仏 (奈良県)

原寸大

関東地方



地図クイズなど



草津温泉 (群馬県)



いちご狩り (栃木県)



渋谷の町並み (東京都)



川越の町並み (埼玉県)



横浜のみなとみらい21 (神奈川県)



水戸の偕楽園 (茨城県)



南房総の花畑 (千葉県)

人々の暮らしが見える写真とイラスト地図

「地理的な見方・考え方」を働かせる写真

帝国書院
撮影



↑1 田植えをする人々
(インドネシア、バリ島、2023年1月)



1月に米づくりを行っているのは、日本ではあまり見たことがないね。



↑p.30 田植えをする人々 (インドネシア、バリ島、2023年1月)

撮影地がインドネシアのバリ島であること (=場所) と、撮影時期が1月であること (=時期) から、「なぜバリ島では1月に田植えができるのだろう」「日本との違いは何だろう」などを考えられるようにしています。

帝国書院
撮影



↑p.27 シベリアの市場
(ロシア、ヤクーツク、2021年1月)

ポイント

毎年国内外で取材を行い、人々の暮らしや地域の様子が読み取れる写真を撮影しています。

帝国書院
撮影



↑3 筑紫平野での小麦の収穫(上)と田植えの終わった水田(下)(佐賀県神埼市、2022年) 資料活用 2枚の写真が撮影された月に注目しよう。

↑p.175 筑紫平野での小麦の収穫(上)と田植えの終わった水田(下)(佐賀県神埼市、2022年)

生徒の興味・関心を喚起し、比較や位置関係の把握などの「地理的な見方・考え方」を働かせることができる写真を厳選し、掲載しています。積極的に現地取材を行っています。



←↓1 大阪湾沿岸の工業地帯の移り変わり(兵庫県尼崎市) 3枚とも、ほぼ同じ場所を撮影しています。資料活用 建物の様子や周辺の環境の変化に注目しよう。

大阪湾に面した工業地帯は、どのように変化してきたのかな?



帝国書院
撮影

↑p.206 大阪湾沿岸の工業地帯の移り変わり(兵庫県尼崎市)

同じ地点の時期が違う写真を比較することで、地域の変化を捉えられるようにしています。



帝国書院
撮影

↑4 伝統的な衣服を着た人々(インドネシア、フロレス島、2018年9月) 資料活用 衣服のつくり方に注目しよう。



帝国書院
撮影

↑5 食事の様子(インドネシア、スマトラ島、2018年9月) 米は鍋でゆでてから蒸す方法で炊かれ、全員が大皿に入れて出されます。



帝国書院
撮影

↑6 高床になっている家(インドネシア、スラウェシ島、9月) 高床の下は、洗濯物の干し場や作業場などになっています。



↑7 スコールのなかを歩く人々(インドネシア、ジャカルタ、11月) スクールは、15分程度の短時間でやむのが一般的です。

↑p.31 暑い地域の暮らし ~インドネシアでの生活~

暑い地域の衣食住をはじめとする地域の特徴的な写真を、ページ右上にまとめて掲載しています。このレイアウトは、他の地域のページでも共通しており、地域間の比較をやすくしています。

地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」

第2部第2章「世界の諸地域」では、どの州の学習でも、「写真で眺める」→自然環境という順番で展開し、地域の特徴を理解するための土台をつくれるようにしています。

写真で眺める

自然環境、歴史・文化、産業などに関する写真を大きく掲載し、地域の特徴を概観できるようにしています。

自然環境

異文化理解を深める上で基礎・基本となる各州の地形や気候などの自然環境を、人々の暮らしと関連付けながら、端的に理解できるようにしています。

【例】第2部第2章第2節「ヨーロッパ州」(p.64-79)

写真で眺める ヨーロッパ州

アルプス山脈を走る登山列車(スイス、インターラーケン近郊、2020年6月) 列車で移動しながらアルプス山脈の雄大な景色を楽しむことができます。 p.66

歴史的な建築物がみられる町並み(イギリス、ロンドン、2015年) p.68, 76

二人の間にある地図の印は何かな?

ヨーロッパ州の自然環境

ヨーロッパ州には、歴史のある建築物が多くあつて、観光名所になっている所が多いのだね。

ヨーロッパ州の自然環境

ヨーロッパ州の自然環境

ヨーロッパ州の自然環境

ヨーロッパ州の自然環境

↑p.64-65

第2部 ヨーロッパ州

2部第2章 ヨーロッパ州では、どの州の結びつきの強まり(ポイント)によって、どの州の結びつきが強いのかを、学問的に説明しています。

1 ヨーロッパ州の自然環境

ヨーロッパ州は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域かな

アルプス山脈の南北で異なる地形

ヨーロッパは、ユーラシア大陸の西部に位置し、西は大西洋、南は地中海など、さまざまな海に面しています。ヨーロッパの中央部にはアルプス山脈が東西に走り、高い山々がそびえています。ヨーロッパの地形は、このアルプス山脈を境として、南北で異なります。

アルプス山脈の北側には、フランス半島や東ヨーロッパ平原などの広大な平野が広がっており、ライン川やドナウ川などの国際河川が流れています。これらの河川は、流れが緩やかで水運に適しており、その多くが国境を結んでいます。そのため、流域の都市を結ぶ交通路として重要な役割を果たしてきました。さらに、ヨーロッパの北部に位置するスカンディナヴィア半島には、氷河によって削られた谷に海水が深く入り込んだフィヨルドとよばれる地形もみられます。一方、アルプス山脈の南側は、北側よりも山がちで平野が少なく、流れの急な河川もみられます。また、火山も多く、イタリアやギリシャなどでは地震がしばしば発生します。

緯度が高いわりに温暖な気候

ヨーロッパの大部分は、日本に比べて高緯度に位置していますが、大西洋を北上する暖流の北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けて、比較的温暖です。なかでも、大西洋と北海に面した地域は西岸海洋性気候となっており、冬でも寒さはそれほど厳しくありません。この地域では、1年を通して降水量が安定しているため、小麦をはじめ、さまざまな作物の栽培、牧畜、畜産が盛んです。

一方、ギリシャやイタリア、スペインなどの地中海沿岸は、夏は晴天が続いて乾燥する地中海性気候であり、曇り空が多いイギリスやドイツの人々にとっての夏のリゾートになっています。

北極圏にかかるスカンディナヴィア半島の大部分やヨーロッパの東部、標高が高いアルプス山脈の周辺といった地域は、冬の寒さが厳しい亜寒帯(冷帯)です。北極圏の地域では、夏になると太陽が沈んでも暗くならない白夜とよばれる現象がみられ、短い夏の期間を森のなかの別荘などで過ごす人が多いです。

ヨーロッパ州の主な都市の気候図

ヨーロッパ州の主な山脈や平原、海流の位置を、図で確認しよう。

ヨーロッパ州の地形や気候の特徴を、アルプス山脈の南北に分けて説明しよう。

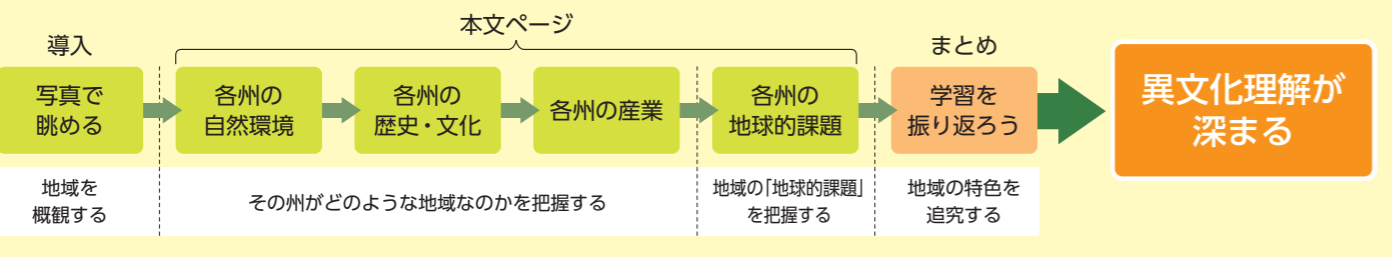
↑p.66-67

地形がわかる地図と雨温図から、自然環境の概要を理解できるようにしています。

高緯度にもかかわらず温暖な気候と、人々の生活や産業を関連付けながら、自然環境を理解できるようにしています。

ポイント

世界の諸地域の展開例



地域の特徴を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」

歴史・文化を扱うページでは、地域によって異なる暮らしぶりを理解できるようにしています。産業などを扱うページでは、**地域の特徴ある事象**を取り上げています。

歴史・文化

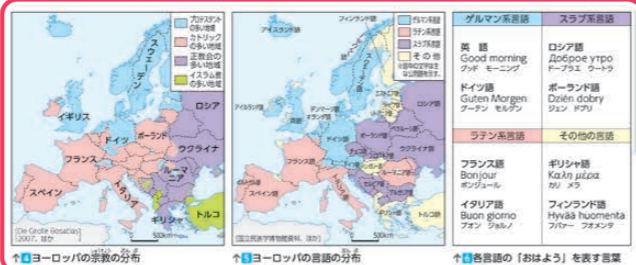
日本とは大きく異なる世界各州の人々の暮らしや文化の特色を、**歴史的な背景も踏まえて**理解できるようにしています。

産業

地域の特徴ある産業などを理解できるようにしています。



カトリックの祭り、謝肉祭(カーニバル)
キリスト教には、毎年3月もしくは4月にキリストの復活を祝うイースターという祭りがあり、カトリックでは、その46日前から肉食を禁じる伝統があります。この肉食禁止の時期に入る前に、家族や友人と肉を食べて楽しむ風習が生まれ、これが謝肉祭の起源になったといわれています。現在では、仮装をしたり、山車をつくってパレードを行ったりする謝肉祭が、カトリック文化圏で広く知られる季節行事になっており、植民地時代にカトリックが広まった南アメリカの国々でもみられます(p.110)。



ヨーロッパの国々には、文化にどのような共通性や多様性が見られるのだろうか。
ヨーロッパでは、多くの地域でキリスト教が信仰されています。クリスマスやイースター(復活祭)など、キリスト教の重要な行事の期間は、家族や友人と集まって祝います。ヨーロッパの町や村の中心には、キリスト教の教会があり、日曜日には多くの人が礼拝に訪れます。結婚式や葬儀など、人生の節目となる儀式の多くが教会で行われ、キリスト教はヨーロッパの人々の生活に深く根づいています。
ヨーロッパで信仰されるキリスト教には、プロテスタント、カトリック、正教会という宗派の違いがあります。イギリスやドイツ北部、スウェーデンなどではプロテスタントを信仰する人が多いのに対して、イタリアやスペイン、フランスなどではカトリックが一般的です。また、ロシアやギリシャなどに住む人の多くは、正教会を信仰しています。
ヨーロッパのさまざまな言語も、およそ三つの系統に分けることができます。北西部では、英語やドイツ語などのゲルマン系言語が、南部ではイタリア語やスペイン語などのラテン系言語が多くの人に話されています。また、東部では、ロシア語やポーランド語などのスラブ系言語が一般的です。同じ系統の言語は、同系統の民族の言葉が長い時間をかけて変化してきたもので、文法や発音が似ているといった共通の特徴がみられます。
ヨーロッパでは、固有の言語やキリスト教を中心とした文化が育まれてきました。その一方、かつてヨーロッパ諸島の植民地だったアジアやアフリカの国々からの移民や難民、トルコなどの周辺諸国からの労働者など、多様な異なる文化をもつ人々がヨーロッパに移り住み、イスラム教を信仰する人も増えてきました。そのため、現在のヨーロッパでは、多様な文化をもつ人々が互いに支え合いながら暮らす共生社会が目指されています。そこでヨーロッパ諸国は、移民や難民を受け入れるための制度を整え、学校教育では異文化について学んだり、移民や難民に対して現地語の習得を支援したりする取り組みを行っています。

2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性
ヨーロッパ文化の共通性と多様性について、2つの側面から解説しています。
1. ヨーロッパ文化の共通性
2. ヨーロッパ文化の多様性
このページには、ヨーロッパの文化の共通性と多様性について詳しく解説されています。

p.68-69

節の問いにつながる「国どうしの結びつきの強まり」が生まれる要因について、ヨーロッパには国を越えた共通の文化や言語があることを学ぶことで理解できるようにしています。また、移民や難民についての最新情勢についても触れています。

かつてヨーロッパ諸島の植民地だったアジアやアフリカの国々からの移民や難民、トルコなどの周辺諸国からの労働者など、多様な異なる文化をもつ人々がヨーロッパに移り住み、イスラム教を信仰する人も増えてきました。そのため、現在のヨーロッパでは、多様な文化をもつ人々が互いに支え合いながら暮らす共生社会が目指されています。そこでヨーロッパ諸国は、移民や難民を受け入れるための制度を整え、学校教育では異文化について学んだり、移民や難民に対して現地語の習得を支援したりする取り組みを行っています。

同縮尺の地図で、比較をしやすいようにしています。



航空機の部品を専用貨物機に積み込む様子(ドイツ、ブレーメン) プレーメンの航空機工場では、航空機の部品を専用貨物機に積み込む作業が行われています。

5 ヨーロッパ州の工業とEUの影響
ヨーロッパ州の工業とEUの影響について、EU統合による産業の発展とEU統合による産業の発展について詳しく解説されています。

p.74-75

ヨーロッパで工業が発達した歴史的背景を丁寧に解説することで、工業の特色を理解できるようにしています。

写真とキャラクターの発言から、ヨーロッパでは国際分業が行われているという工業の特色につながる導入にしています。



現在、工業生産や経済活動が活発な地域は、ロンドンやフランクフルト、ミュンヘンなどの大都市近郊に移動しています。そして、情報通信技術(ICT)産業がストックホルムやヘルシンキで発達するなど、工業が盛んな地域はヨーロッパ各地に拡大しています。
工業地域の拡大には、EU加盟国の拡大とも関係しています。2004年以降にEUに加盟した東ヨーロッパの国々は工業化が遅れていました。しかし、資金が安く、製品を安く生産できることから、西ヨーロッパの企業が工場を移転する動きが活発になっています。また、域内にたくさんの方が暮らすEUの巨大な市場を求めて、自動車や電気機械などをつくる日系企業も、ポーランドやチェコといった東ヨーロッパの国々に進出しています。東ヨーロッパの国々は、多くの雇用を創出し、高度な工業技術や知識をもたらしてくれた外国企業の進出に大きな期待を寄せています。
過去には工業が発達する過程で、工場からの廃水・廃油による河川の水質汚濁や大気汚染、酸性雨の原因とする森林破壊が起こりました。こうした経験から、ヨーロッパの国々は、再生可能エネルギーの導入や、環境への負荷が小さい電気自動車などの開発にも取り組んでいます。

p.74-75

脱炭素社会に向けた取り組みなど、各州の最新動向を紹介しています。

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる異文化理解「世界の諸地域」

本文ページの最終見開きでは、各州に見られる地球的課題とその対策について扱っています。単元の最後には、全体を振り返り、地域的特色をまとめる「学習を振り返ろう」を設置しています。

地球的課題

環境問題など、地球的課題について、各州の具体例をもとに理解できるようにしています。

学習を振り返ろう

白地図を用いた知識・技能の確認と、思考ツールを用いた学習内容の整理を行い、最後に「節の問い」に対する自らの考えをまとめられるようにしています。

異文化理解が深まる

6 EU統合による課題への取り組み

EU域内の経済格差
EU域内での移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、経済格差の解消が課題となっています。

地理プラス ヨーロッパとの結びつきからみたロシア

ロシアの天然ガスと原油の輸出先
ロシアの天然ガスと原油の輸出先は、主にヨーロッパの国々です。ロシアの天然ガスと原油の輸出先は、主にヨーロッパの国々です。

p.76-77

ヨーロッパ州では地球的課題のうち「経済格差」について、EU域内で生じている経済格差の現状を因果関係のわかる本文で解説しています。

EU域内の経済格差

EU域内での移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、経済格差の解消が課題となっています。

また、課題解決のために行われている対策や最新情報まで解説しています。

ロシアについてはコラム「地理プラス」で記述しています。2022年のロシアによるウクライナ侵攻以降の情勢まで解説しています。

2節 ヨーロッパ州

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

2節の問い 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

2節の問い 節の問いについて、あなたの考えをまとめよう

	EUの統合による効果	EUの統合によって生じた課題
人の動き	・パスポートなしで自由に国境を行き来できるようになった	・共通農業政策がとられているため、経済的に不安定なヨーロッパの国々の農業に支出する補助金が増加した
物の動き	・共通農業政策がとられているため、経済的に不安定なヨーロッパの国々の農業に支出する補助金が増加した	・スウェーデンやデンマークなど、EUに加盟していてもユーロを導入せず、独自の通貨を使っている国もある
通貨	・スウェーデンやデンマークなど、EUに加盟していてもユーロを導入せず、独自の通貨を使っている国もある	・国際的な分業による航空機の製造など、国境を超えた技術協力ができるようになった
産業	・国際的な分業による航空機の製造など、国境を超えた技術協力ができるようになった	

p.78-79

左ページでは、白地図を用いながら自然環境と気候、農業の関連性などを記述した文章の穴埋めをして、重要用語の確認ができるようにしています。

右ページでは、思考ツールの「マトリックス」を用いて「EUの統合による効果」と「EUの統合によって生じた課題」を整理できるようにしています。表にまとめることで比較がしやすくなり、節の問い「ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。」について、自らの考えをまとめられるようにしています。

詳しくは本資料p.35-36

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

第3部第3章「日本の諸地域」では、どの地方もイラスト地図→「写真で眺める」という順番で展開しています。これから学習する地域を概観できるようにしています。

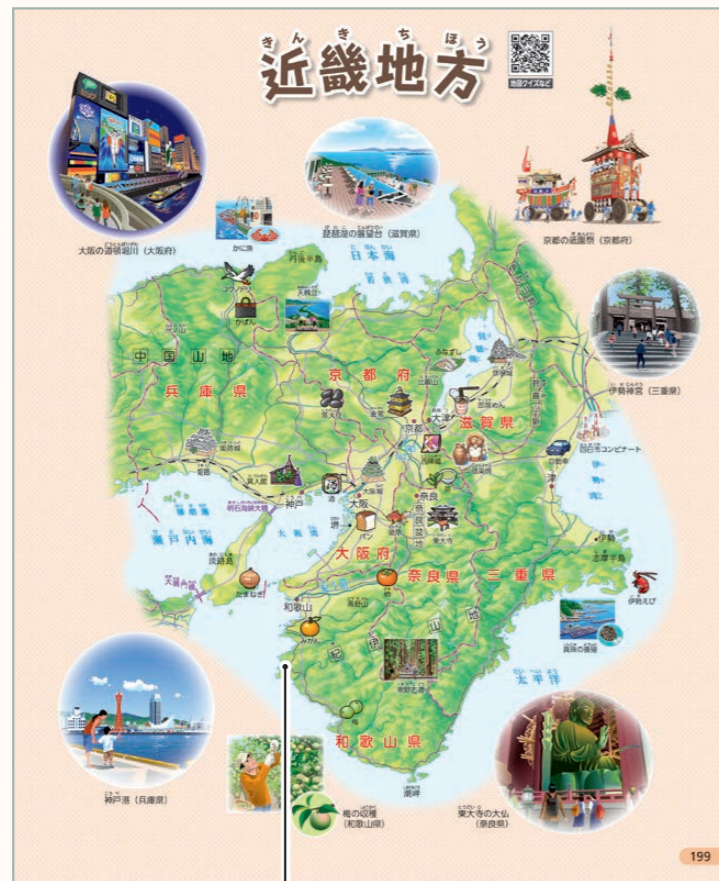
イラスト地図

地方を概観するイラスト地図を掲載しています。小学校からの橋渡しになるよう、手描き風の親しみやすい表現にしています。

写真で眺める

各地方の「注目する視点」(本資料p.28)に関連する写真を大きく掲載し、地域を具体的にイメージできるようにしています。また、「注目する視点」に関連する写真を取り上げることで、学習に見通しをもてるようにしています。

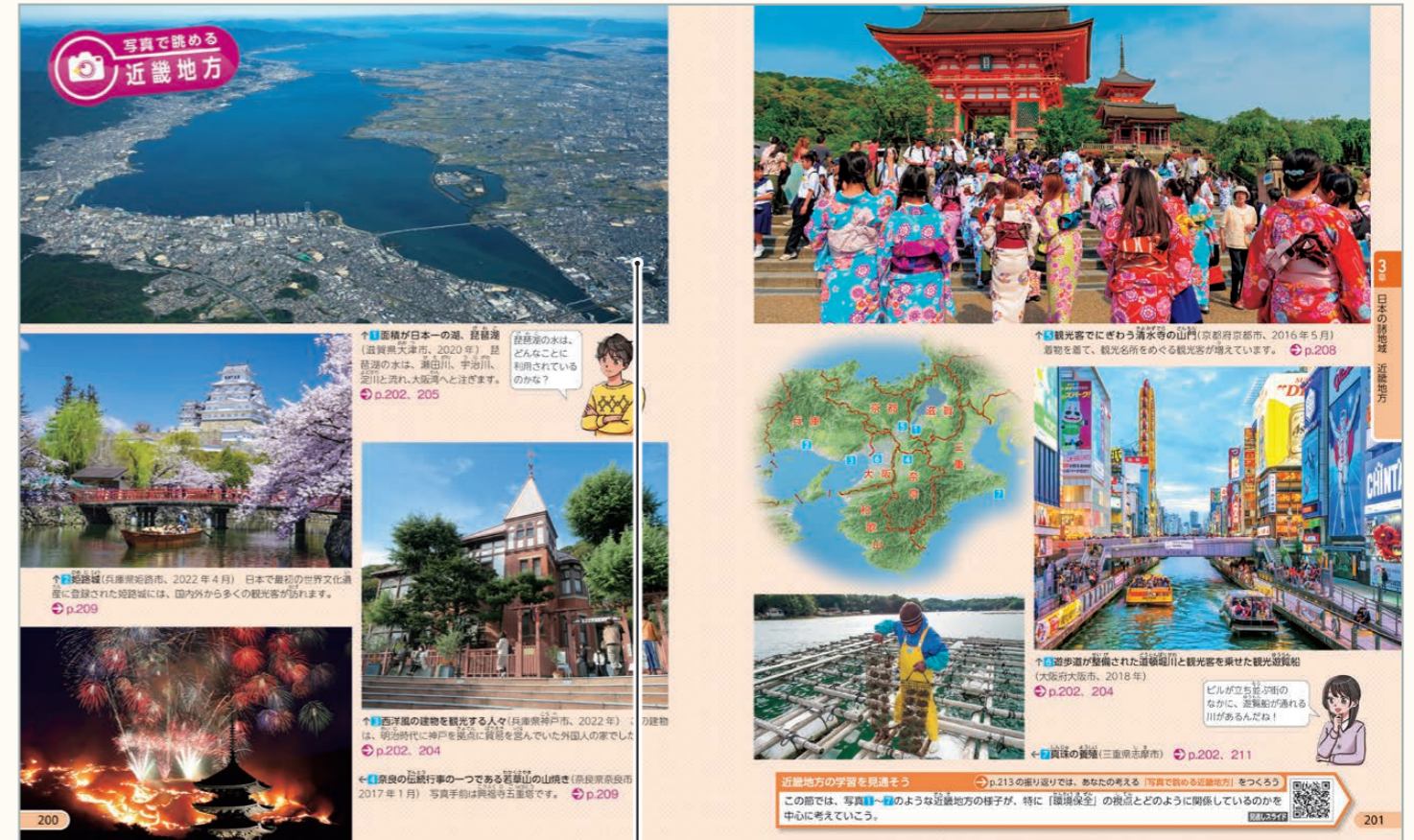
【例】第3部第3章第3節「近畿地方」(p.199-216)



p.199

イラスト地図にすることで、大まかな地形の様子を捉えられるようにしています。

特徴的な産業や文化などのイラストを掲載し、地域の特色を端的に捉えられるようにしています。

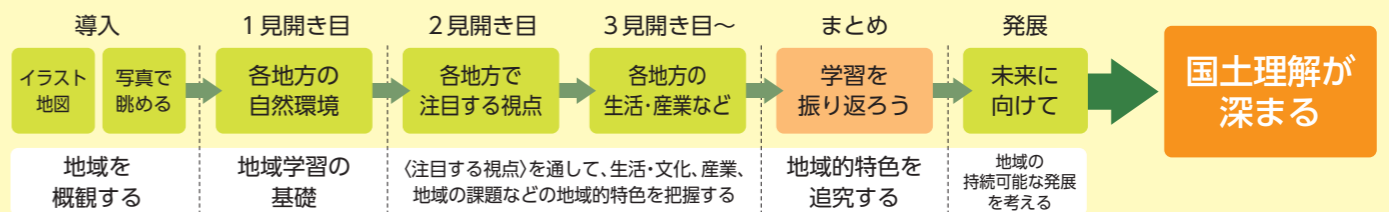


p.200-201

近畿地方では琵琶湖(=水質保全)や観光地(=景観保全)などの写真を掲載し、「注目する視点」が「環境保全」であることに着目できるようにしています。

ポイント

日本の諸地域の展開



地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

1 見開き目では、基礎・基本となる、地形や気候などの自然環境を扱っています。

2 見開き目では、各地方の「注目する視点」と関連の深い地理的事象を扱うことで、各地方で追究する主題を明確にしています。

自然環境

自然環境と人々の生活の関わりについて理解できるようにしています。

「注目する視点」と関連の深い地理的事象 [近畿地方の場合：環境保全]

京阪神で暮らす人々の大切な水がめである琵琶湖の水質保全のために、地域の人々がどのような課題と向き合い、克服してきたのか理解できるようにしています。

第3節 近畿地方

1 近畿地方の自然環境

近畿地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

近畿地方は地形に注目すると、大きく北部・中央部・南部の三つの地域に分けられます。

北部は中国山地や丹波高地などのなだらかな山地であるのに対して、南部には紀伊山地の険しい山地が広がります。

近畿地方は、北は日本海、南は太平洋、西は瀬戸内海に面しています。播磨灘や大阪湾のほとんどが人工海岸であるのに対して、北部と南部では山地が海まで通り、若狭湾や志摩半島には、入り組んだ海岸線が特徴のリリアン海岸が見られます。

2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。

多くの人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全が近畿地方の大きな課題のひとつであることを理解できるようにしています。

3 ニュータウン

1960年代から郊外の丘陵地に千里・泉北・須磨などのニュータウンがいくつも建設されました。六甲山地が海岸まで通って平野が広がる地域になりました。

近畿地方の気候も、北部・中央部・南部で異なる気候です。日本海に近い北部は、冬には北西からの季節風の影響で雨や雪が多く、山地にはスキー場がたくさんあります。一方、太平洋に近い南部は、暖流の影響で冬でも温暖で、和歌山県ではみかんや梅などの果樹栽培が盛んです。紀伊半島の南東側は、南東からの季節風が吹きつける夏に雨が多く降るため、日本有数の多雨地域として知られます。温暖で雨が多い紀伊山地は、樹木を育てる林業が盛んな地域となっています。

中央部は、平野や盆地を中心に夏の暑さが厳しく、阪神甲子園球場で行われる夏の全国高校野球選手権大会は、暑さ対策が課題になっています。また、京都盆地などの内陸の盆地は、夏は暑さが厳しく、冬は冷え込むため、1年の気温の差が大きいのが特徴です。中央部は、北部と南部を山地に挟まれているので、年間を通して降水量が少なく、水不足のときでも田畑に水を運ぶように、播磨平野や奈良盆地などではため池が数多くつくられてきました。

p.202-203

節の冒頭に「注目する視点」を提示しています。各地方の学習を、何に注目して見通すのかがわかるようにしています。

自然環境と人々の生活の関わりがわかる記述にしています。

平地が多く、近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの平地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。

各地方の自然環境の特徴に応じた災害と、防災への取り組みを解説しています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。

多くの人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全が近畿地方の大きな課題のひとつであることを理解できるようにしています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。

p.204-205

京阪神大都市圏の概要をおさえた上で、琵琶湖水系について考えられる展開としています。多くの人口を支えるために大量の水が必要だからこそ、琵琶湖の水質保全が近畿地方の大きな課題のひとつであることを理解できるようにしています。

解説

知識定着を図るための一助として、用語の「解説」を全53か所に設置しています。

本文に書かれている人々の生活と琵琶湖の関係を、図版の読み取りを通じて深められるようにしています。

1960年代から郊外の丘陵地に千里・泉北・須磨などのニュータウンがいくつも建設されました。六甲山地が海岸まで通って平野が広がる地域になりました。



地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

3見開き目以降は、生活や産業など、各地方の特色ある事象を<注目する視点>と関連付けながら扱っています。また、その中で人々が地域の課題をどのように克服し、現在の発展に至ったのかを理解できるようにしています。

産業① [近畿地方の場合：工業+環境保全]

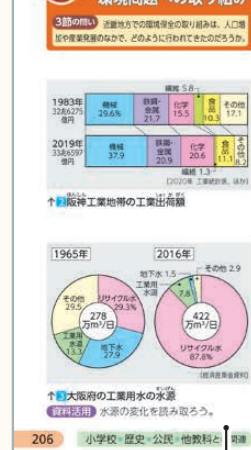
阪神工業地帯が発展の過程で経験した公害などの課題と、それをどのように克服したのかを理解できるようにしています。

産業② [近畿地方の場合：観光業+環境保全]

京都・奈良では、歴史的な景観を保全することで観光業が発展した経緯を扱い、環境(景観)保全が地域の発展に結びつくことを理解できるようにしています。

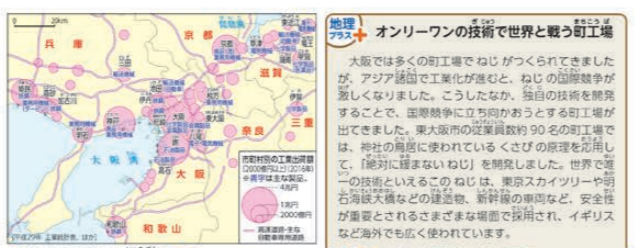


3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み



大阪湾沿岸の地域は、明治時代から繊維などの軽工業が、第二次世界大戦前後からは重化学工業が発達し、**阪神工業地帯**の中心として日本の工業を支えてきました。しかし、高度経済成長期に工業がさらに発展すると、地下水のくみ上げによる地盤沈下や、工場の排煙による大気汚染などの公害が深刻になりました。そのため、これらの対策として、地下水採取の規制や使用した水の再利用、排煙処理装置の設置が進められました。その結果、環境の改善が進み、今では廃棄物や二酸化炭素の排出ゼロに取り組みする工場も増えています。

↑p.206-207



近畿地方の主な工業と出荷額 (億円)

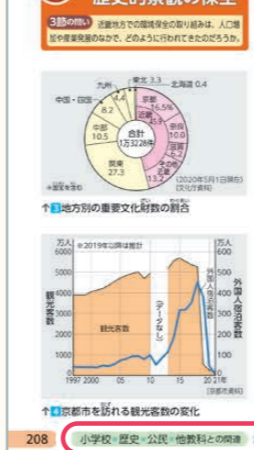
品名	大阪	その他
自動車	27.1%	32.7
繊維	67.3%	32.7
化学	64.0%	36.0
鉄鋼	21.7%	78.3

大阪では多くの町工場がねじがつくられてきました。アジア諸国で工業化が進むと、ねじの国際競争が激しくなりました。こうしたなか、独自の技術を開発することで、国際競争に立ち向かうとする町工場が出てきました。東大阪市の従業員約90名の町工場では、**「絶対に寝まないねじ」**を開発しました。世界で唯一の技術といえるこのねじは、東京スカイツリーや明石海峡大橋などの建造物、新幹線の車両など、安全性が重要とされるさまざまな場面で採用され、イギリスなど海外でも広く使われています。

↑p.206-207



4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全



京都と奈良では、歴史的景観を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。



古都の景観の保全に向けて

京都や奈良には、伝統的な町並みが多く残されています。しかし、歴史的な建物の近くに現代的なビルが建てられるなどして、古都の景観は失われつつあります。このため、京都や奈良では、住民の利便性を守りながら、古都の歴史と伝統を後世に受け継いでいくための、さまざまな取り組みが行われています。例えば京都では、伝統的な町並みがよく残っている地区などで、建物の高さやデザインを整えたり、電線を地中に埋めたりすること(無電柱化)が行われています。また、奈良でも町家とよばれる伝統的な住居の保存のために、外観を保持して建物の内部だけをコンビニエンスストアやカフェなどの店舗に改装するなどの取り組みが行われてきました。ほかにも、興福寺五重塔や若草山への眺望の確保などを目的に、建物の高さが制限されています。これらの取り組みには、歴史を感じることでできる町並みの魅力を残したいという、古くに暮らす人々の願いが込められています。

↑p.208-209

ポイント

興味・関心を喚起する写真

同じ場所でも撮影された時期が違ったり、同じ時期であっても場所の違ったりする写真を随所に掲載しています。複数の写真の比較から、さまざまな疑問が生まれるようにしています。

比較ができる写真 掲載ページ一覧

ページ	タイトル
p.19	活発な噴火を続ける西之島
p.49	雨季と乾季のトンレサップ湖の様子
p.52	シェンチェン(深圳)の変化
p.70	ドイツとポーランドの国境に架かる橋を行き来する人々や車
p.70	かつてのドイツとポーランドの国境
p.112	手作業でのコーヒーの実の収穫
p.112	大型機械を使ったコーヒーの実の収穫
p.115	アマゾン川流域の熱帯林の伐採
p.144	「さっぽろ雪まつり」の会場で雪遊びを楽しむ子どもたち
p.144	花見を楽しむ人々

ページ	タイトル
p.156	氷河の後退
p.175	筑紫平野での小麦の収穫と田植えの終わった水田
p.182	洞海湾の変化
p.206	大阪湾沿岸の工業地帯の移り変わり
p.209	2003年と2022年の二年坂の様子
p.228	収穫前の水田
p.228	伝統的工芸品 小千谷縮の雪さらし
p.264	高台に造成された新しい住宅地(三王団地)の移り変わり

NEW

小・歴・公アイコン 小学校・歴史・公民・他教科との関連

小歴公 小学校・歴史・公民・他教科との関連

小学校での学習や、他分野・他教科と関連のある題材を示し、物事を多面的・多角的に捉える足がかりとなるようにしています。また、分野間・教科間でのカリキュラム・マネジメントを実施する指標となるようにしています。

国内の産業構造の変化や国際競争など、阪神工業地帯が直面したさまざまな課題と、それに対応する中で変化し続けた経緯を扱っています。将来に向けた展望についても触れています。

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

着実に深まる国土理解「日本の諸地域」

学習を振り返ろう

白地図を用いた知識・技能の確認と、思考ツールなどを用いた学習内容の整理を行い、最後に節の問いに対する自らの考えをまとめられるようにしています。

未来に向けて

各地方の特色となる地理的事象をSDGsと関連させて追究できるようにしています。

国土理解が深まる

3節 (p.199～211) 近畿地方

3節の問い 近畿地方の環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

振り返り 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

1. A～Gにあてはまる府・県庁所在地名と、その府・県名を答えよう。
2. ④～⑥にあてはまる湖名、海名、河川名、山地名を答えよう。
3. ①～③にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

3節の問い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

振り返り 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

この節の学習を振り返りながら、図の①～⑥を埋めて、環境保全の取り組みに着目した近畿地方のまとめを完成させよう。

②の問いについて、考えを深めよう

③の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

↑p.212-213

左ページでは、白地図を用いながら暮らしや産業などについて記述した文章の穴埋めをして、重要用語の確認ができるようにしています。

右ページでは、近畿地方の略図を用いて環境保全のために行われている取り組みを整理できるようにしています。問題が発生した原因と、それに対する取り組みを整理することで、節の問い「近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。」について自らの考えをまとめられるようにしています。

未来に向けて 環境につちかわれた産業の発展のために

日本には、伝統工芸など地域に根ざした地場産業が多くあります。地場産業は、その土地の自然環境を背景に、入手しやすい原材料を生かして、独自の品々を生み出してきました。さまざまな製品を生み出してきた京都の企業は、伝統技術を生かしながら発展していくために、どのような取り組みを行ってきたのでしょうか。

京都には、長い歴史のなかで育まれてきた地場産業（→p.229）があります。京籠・清水籠、漆器などは、京都を代表する伝統的工芸品として知られています。また、清酒や京漬物（写真①）、京料理は、きれいな水や京野菜など、地域で得られる原材料を生かした地場産業として発展し、現在では観光資源の一つにもなっています。

一方で京都は、先端技術産業の分野でも、国内の重要な製品の一つでもあります。病院での診断や航空機に使われる精密機械、業務用IC（→p.177）の基盤から、駅の自動改札機やゲーム機（写真②）といった身近なものまで、さまざまな先端技術が京都の企業から生み出されてきました。これらの先端技術産業のなかには、地場産業と深く関わっているものがあります。例えば、京焼など陶磁器を生産する技術から、超高性能などに優れたファインセラミックス（→p.223）を開発し、家電部品などに組み込まれる部品を製造している企業が多くあります。これらの企業のなかには、メガソーラー（写真③）や住宅用太陽光発電システムなどの環境技術においても、世界的なメーカーとなっている企業があります。このように、伝統技術を生かしながら、社会の変化に応じて新たなものづくりに挑戦することで、京都の企業は大きく発展してきました。

現在の京都の産業をリードしているのは、主に戦後から1970年代にかけて生まれた企業です。しかし、それ以降は、京都で新たに企業を立ち上げる例が少なくなっています。そのため京都では、京都大学など新しい技術者が育つ環境を生かしながら、企業を立ち上げるための講習会を開催したり、新しい企業を支援するための施設をつくったりするなどの取り組みを進めています。

↑p.216

関連するSDGsのゴールをアイコンで示しています。

本資料p.24で紹介している「古都京都・奈良と歴史的景観の保全」の学習と関連させて、京都の伝統工芸品が地場産業や先端技術産業に成長して、現在に受け継がれている背景を記述しています。

節末「未来に向けて」掲載ページ一覧(全7か所)

ページ	地方	タイトル	テーマ
p.182	九州地方	自然環境の再生から資源循環型社会へ ～工業の発展と公害をいち早く経験した福岡県北九州市～	環境・エネルギー
p.198	中国・四国地方	通信網を生かした地域おこしの取り組み ～徳島県神山町や上勝町のICT活用～	情報・技術
p.216	近畿地方	環境につちかわれた産業の発展のために ～地場産業から先端技術を生み出してきた京都の企業～	伝統・文化
p.232	中部地方	時代の変化に対応する産業の創出 ～新たなものづくりに挑戦を続ける浜松市を例に～	情報・技術
p.248	関東地方	公共交通を活用したまちづくり ～コンパクトシティを目指す栃木県宇都宮市～	情報・技術
p.264	東北地方	災害からの復興と生活の場の再生 ～高台に移転した岩手県宮古市田老地区～	防災
p.280	北海道地方	多様な文化を大切にしている取り組み ～自然と共に生きるアイヌ民族を例に～	人権・多文化

地域の特色を着実に理解できる地誌の展開

世界と日本の諸地域学習の「序説」

文章だけではわかりにくい、地域の特色と課題の関係について、写真やイラストを用いてわかりやすく説明しています。

第2章 世界の諸地域

2章のねらい 世界の各州における地域の特色や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。

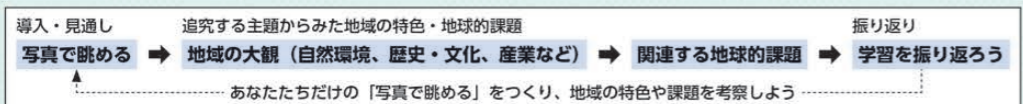
学ぶにあたって

第2部第1章では、さまざまな自然環境の下で暮らす人々の生活の工夫や近年の生活の変化、さまざまな宗教と生活との関わりなどを学習してきました。第2章では、p.3 図5で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学習します。各州には、地域を追究する主題が設定してあり(図3)、この主題に沿って、地域の特色をとらえていきます。

各州の特色をとらえる際は、州ごとの自然環境や歴史・文化、産業といった地域の特色を学習します(図1・2)。そのなかで、経済格差や熱帯林の破壊など、地域にみられる課題にも目を向けてみましょう。これらのなかには、地球規模で共通してみられる地球的課題もあります。これらの課題を解決するための方法を追究することが、私たちが暮らす地域をよりよくするためのヒントにもなります。



↑1 地域の特色と地球的課題の関連を示した例 地域の特色は地球的課題にも結びついています。例えば、ブラジルは世界有数の牛肉の輸出国です。牛肉の輸出は、国の経済を支える大きな産業であり特色の一つになっています。しかし、牛を飼育する牧場は熱帯林を伐採してつくられるため、熱帯林の破壊や、地球温暖化という地球的課題を引き起こす原因にもなっています(→p.114)。



↑2 第2部第2章における各州の学習の展開

州	地域を追究する主題	注目する地球的課題	州	地域を追究する主題	注目する地球的課題
アジア州	急速な経済成長	都市・居住問題	北アメリカ州	巨大な産業	生産と消費の問題
ヨーロッパ州	国どうしの結びつきの強まり	経済格差	南アメリカ州	農地や鉱山の開発	熱帯林の破壊
アフリカ州	特定の産物に頼る経済	食料問題	オセアニア州	他地域との関係	多文化の共生

↑3 各州における地域を追究する主題と注目する地球的課題

各州における地域を追究する主題と、注目する地球的課題について一覧で示し、各州でどのような地球的課題を扱っているかが一目でわかるようにしています。

世界と日本の諸地域学習の冒頭には「序説」を設置し、地域的特色を追究する際の視点(主題)と地球的課題・地域の課題の関係を端的に示しています。

地域に見られる課題には、現在進行している事例だけでなく、課題を克服した事例も含めています。これらの事例を参考にすることで、より具体的に地域の「持続可能な発展」について考えられるようにしています。

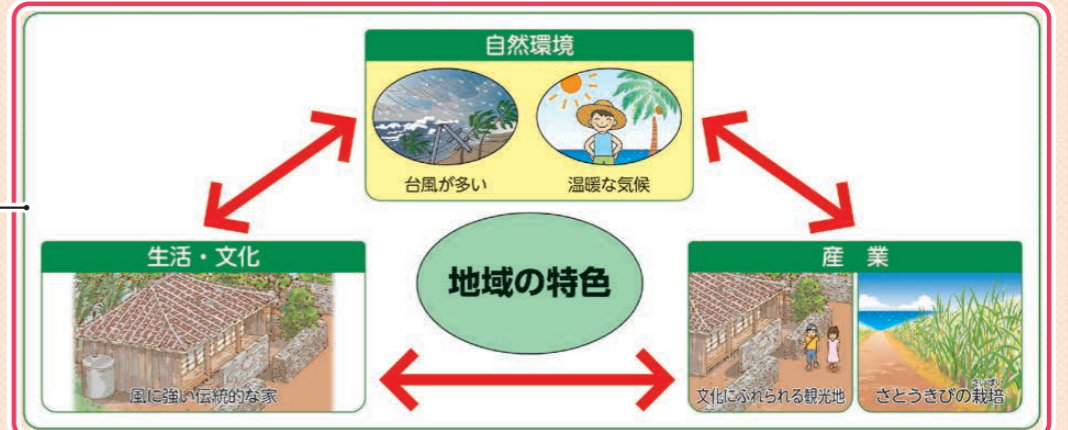
第3章 日本の諸地域

3章のねらい 日本の各地方における地域の特色や、その特色と地域にみられる課題との関係をとらえよう。

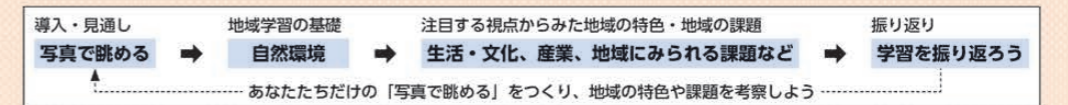
学ぶにあたって

第3部第2章では、自然環境、人口、エネルギーと産業、交通・通信などの視点から、日本全体の特色を学習してきました。しかし、その特色は地方によって異なります。第3章では、p.164 図3で学習した日本を七つの地方に分ける方法を利用して、日本の諸地域を学習します。各地方には、地域を追究する際に注目する視点が設定してあり(図3)、この視点に注目しながら、人々の生活・文化や

産業など、地域の特色をとらえていきます(図1・2)。また、各地方の特色をとらえる過程においては、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのか、ということにも目を向けてみましょう。この章の学習を通して、地域社会をよりよくするためには何が効果的なのかを考え、そして私たちは何ができるのかを考えていきましょう。



↑1 地域にみられる事象の関連を示した例 地域のさまざまな事象には関連があります。例えば四国では、「温暖な気候」であるからこそ、「さとうきび」という特産品が生まれ、「台風が多い」という自然環境の課題があるからこそ、「風に強い家」が生まれました。さらに、「風に強い伝統的な家」は、観光資源にもなっています。これらの事象すべてが、地域の特色をつくり出しています。



↑2 第3部第3章における各地方の学習の展開

地方	注目する視点	地域にみられる課題	地方	注目する視点	地域にみられる課題
九州地方	自然環境	温暖な気候を生かした産業の発展 火山への対策	中部地方	産業	地域の特性を生かした新たな産業の発展
中国・四国地方	交通や通信	交通や通信を生かした産業の発展 過疎地域の活性化	関東地方	人口や都市・村落	人口の集中を生かした産業の発展 過密への対策
近畿地方	環境保全	環境に配慮した産業の発展 自然環境や歴史的景観の保全	東北地方	生活・文化	伝統文化を生かした産業の発展 伝統文化の継承
			北海道地方	自然環境	寒冷な気候を生かした産業の発展 厳しい寒さや雪への対策

↑3 各地方における地域を追究する際に注目する視点と地域にみられる課題

各地方における地域を追究する際に注目する視点と、地域に見られる課題について一覧で示し、各地方でどのような課題を扱っているかが一目でわかるようにしています。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

章・節を単元のまとまりとし、学習の見通し・振り返りがしやすい構成にしています。学習の見通し・振り返りを通して、学習者は「主体的・対話的で深い学び」を、指導者は「指導と評価の一体化」を実現できるようにしています。

章・節の展開 知・技 …知識・技能 思・判・表 …思考・判断・表現 主 …主体的に学習に取り組む態度

見通し

写真で眺める 主

節の冒頭には「写真で眺める」を設置しています。大きく鮮やかな写真から地域を概観する学習活動を通して、学習する地域に対する興味・関心を高め、学習の見通しを立てることができ、「主体的な学び」につながるようになっています。

【例】第2部第2章第1節「アジア州」(p.46-63)

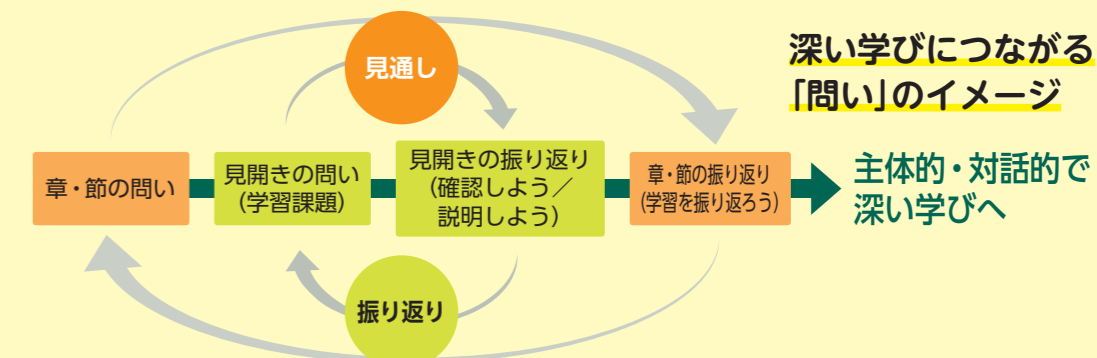
p.46-47

詳しくは本資料p.32

ポイント

右のイメージのように、「節・章の問い」を受けた「学習課題」を各見開きに設置し、見通し・振り返り学習を積み重ねることで、「章・節の問い」にせまれるよう、「問い」を構造化しています。また、各問いの役割と関連を明確にしているため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を着実に習得・育成でき、それぞれの観点別評価を適切に行えるようにしています。「章・節の問い」に取り組むことで、習得した「知能・技能」やそれを活用した「思考・判断・表現」を評価できるようにしています。また、単元を通した見通しと振り返りによって、自らの学びを調整し、粘り強く取り組む「主体的に学習に取り組む態度」を見ることができるようになっています。

問いの種類	観点別評価への対応		
	知	思・判・表	主
章・節の問い	◎	◎	◎
学習課題	◎	○	
確認しよう	◎		
説明しよう	◎	◎	



学習活動

章・節の問い

単元のはじめには「章・節の問い」を設置しています。「単元を貫く問い」を明示することで、見通しをもって学習に取り組めるようになっています。

学習課題

各見開きに「章・節の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。

確認しよう/説明しよう

各見開きに「学習課題」に対応した「確認しよう/説明しよう」を設置しています。

振り返り

学習を振り返ろう

知・技 思・判・表 主

章・節末には「学習を振り返ろう」を設置しています。思考ツールを活用しながら対話を通して「章・節の問い」に取り組むことで、「対話的な学び」や「深い学び」を実現できるようにしています。

p.48

p.50-51

詳しくは本資料p.33-34

p.62-63

詳しくは本資料p.35-36

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

写真で眺める **主**

導入資料
見開き左上の一番大きな写真は、各州・地方の＜地域を追究する主題＞＜注目する視点＞（本資料p.27-28）に関連しています。

p.46-47

写真で眺める アジア州

アジア州の学習を見通そう

この単元では、写真や図表にみられるようなアジア州における「急速な経済成長」を主題に、アジア州がどのような特色をもつ地域なのか、学習していきます。

NEW

「○○州/○○地方の学習を見通そう」
節の問いとなる主題を示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにしています。
QRコンテンツには「写真で眺める」の動画を収録しています。教科書以外の資料も見ることで、主題や視点をより明確に意識して学習の見通しが立てられるようにしています。

←QRコンテンツ「写真で眺める」動画

導入の「写真で眺める」を活用し、見通しを立てて学習を進めていくことで、「主体的な学び」を実現できるようにしています。
各見開きでも見通し・振り返り学習がしやすい紙面構成になっています。各見開きの学習内容は、「章・節の問い」を受ける形で「学習課題」を設置し、展開しています。

本文ページ **知・技 思・判・表**

導入資料
見開きの学習内容の核心をつき、かつ、生徒に「なぜ」を抱かせる資料を掲載しています。

学習課題
見開きの学習でおさえるべき目標を示しています。本時の学習内容を見通す問いです。

本文
背景や因果関係まで丁寧に記述しています。

p.50-51

水田での田植え(インド、コーチ近郊、1月)

小麦の収穫(中国、ホーベイ(河北省)、2020年6月)

羊の遊牧(モンゴル、ウランバートル近郊、2016年8月)

2 アジア州の農業・文化と経済発展

多様な自然環境が広がるアジア州では、どのように農業や文化が育まれ、人口が集中する地域が形成されてきたのだろうか。

気候と農業・食の結びつき

季節風の影響で湿潤な東アジアから南アジアにかけては、平野部に多くの人が暮らし、農業を盛んに行っていました。特に降水量が多い、インドのガンジス川流域や中国の南部、東南アジアの平野では、**かんがい**によって稲作が広く行われています。これらの地域の主食は米で共通していますが、米の種類や調理方法、食べ方は地域によってさまざまです。

降水量がやや少ないインドの西部や中国の北部では、**畑作**が盛んで、小麦やとうもろこしなどが栽培されています。小麦は粉にして、めんや薄く焼いたパンなどに加工して食べられています。乾燥した内陸や西アジアでは、水を得やすいオアシス以外では農業が難しいので、羊やらくだなどの家畜を飼う遊牧が行われています。モンゴル高原やアラビア半島に暮らす人々は、遊牧生活を行いながら、家畜から得られる肉や乳を食料としています。

米と小麦の生産

品名	単位	生産量	割合
米	1000万トン	785674	76.0%
小麦	1000万トン	141613	13.7%
合計	1000万トン	927287	90.0%

かんがい

農作物に与えるための水を、河川や湖、ため池などから水路を通して引き、農地を潤すことです。

章・節の問い NEW
「章・節の問い」を、各ページのタイトル下にも掲載しています。「単元を貫く問い」である「章・節の問い」を常に意識して学習に取り組めるようにしています。

ポイント

「章・節の問い」と見開きの「問い」の関係
各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「章・節の問い」の追究につながるようにしています。

→「章・節の問い」と各見開きの「問い」(学習課題・確認しよう・説明しよう)の関係のイメージ

学習課題 確認しよう 説明しよう

学習課題 確認しよう 説明しよう

学習課題 確認しよう 説明しよう

章・節の問い

アジアの農業地域

アジアの人口密度

アジアにはさまざまな民族が暮らし、人々が信じる宗教もさまざまです。それぞれの民族がほかの地域と交流することによって、宗教が各地に広まってきました。仏教は、インドで生まれ、スリランカや東南アジアに広まったほか、シルクロードを通して中国や朝鮮半島、日本へと伝わりました。西アジアや中央アジアで広く信仰されている**イスラム教**は、アラビア半島で生まれ、インド洋の海上貿易を通して南アジアや東南アジアにも広がりました。インドでは、多くの人が**ヒンドゥー教**を信仰し、フィリピンでは、ヨーロッパの人々の布教活動や植民地支配を通して伝わった**キリスト教**の信者が多数を占めます。

アジアには世界の総人口の6割が暮らし、その多くが季節風の影響で湿潤な地域に集中しています。特に中国とインドという人口が多い国を抱える東アジアと南アジアは、古くから農業が盛んで、両地域で古代文明が栄えました。この二つの文明が栄えた地域に位置する東南アジアは、近代になって開発が進み、人口が多い地域の一つになりました。

20世紀の後半には、日本に次いで韓国やシンガポールなどが経済発展を遂げ、21世紀にかけて東南アジアや中国が続き、今この動きは南アジアへ広がりつつあります。こうした経済発展は、アジアの豊富な労働力を生かした工業化をもたらしたものです。経済発展を遂げた国々では都市化が暮らし、**シャanghai**(上海)や**デリー**、**ジャカルタ**などの巨大都市が、アジアの各地に誕生しています。

世界の人口の変化

1900 50 2000 22 50年

アジア州で橋渡しされている宗教とその主な国を、図や地図帳で確認しよう。

アジア州の人口分布の特徴について、気候と農業との関係から説明しよう。

資料活用アイコン 資料活用
「地理的な見方・考え方」を働かせるのに適した写真・資料に付しています。p.49、206など全53か所に掲載しています。

確認しよう
本文や図版から、学習上大切な事項を確認させる問いです。**正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な定着を促しています。**

説明しよう
学習課題を振り返り、習得した知識を活用して**言語活動**につながる問いです。**思考力、判断力、表現力の育成を促しています。**

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

まとめとして単元末に「学習を振り返ろう」を設置しています。左ページでは学習した知識・技能を白地図を用いて確認できるようにしています。

右ページでは思考ツールを用いた学習事項の整理と、対話を通して「章・節の問い」に対する自らの考えをまとめることで、「深い学び」を実現できるようにしています。

「学習を振り返ろう」

知・技

思・判・表

主

↓p.62-63

学習を振り返ろう 1節(p.46~61) **アジア州**

1節の問い = 見方考え方 地域の特徴(→巻頭8)
アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の振り返り1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう **知識 地図帳活用**

- A~Fにあてはまる国名を答えよう。
- ①~⑥にあてはまる山脈名、海川名、半島名を答えよう。
- ①~⑥にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

中央アジア・西アジア(→p.48~51, 60~61)
・砂漠が多い
・イスラム教が多くの人々に信仰されている
・原油などの資源が豊富
・産油国が加盟する[③]は原油価格や生産量を決める

南アジア(→p.51, 58~59)
・[C]では人口の8割がヒンドゥー教徒
・米や小麦のほか、輸出用の作物である茶や綿花の産地
・近年[C]では、英語や数学の教育水準が高いことなどを背景に、[②]が成長している

東南アジア(→p.56~57)
・伝統的に各地で[④]が盛ん
・大規模な農園である[⑤]で輸出用の作物を生産
・[⑥]には東南アジアのほとんどの国が加盟

降水量が多い地域(→p.49~50)
・[⑦]の影響を強く受ける
・水田での[⑧]を中心とした農業
・米が主食

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

<input type="checkbox"/> 季節風(モンスーン)	<input type="checkbox"/> 遊牧	<input type="checkbox"/> 一人っ子政策	<input type="checkbox"/> 儒教	<input type="checkbox"/> 東南アジア諸国連合(ASEAN)
<input type="checkbox"/> 雨季	<input type="checkbox"/> 仏教	<input type="checkbox"/> 経済特区	<input type="checkbox"/> 一極集中	<input type="checkbox"/> スラム
<input type="checkbox"/> 乾季	<input type="checkbox"/> イスラム教	<input type="checkbox"/> 世界の工場	<input type="checkbox"/> 華人	<input type="checkbox"/> 情報通信技術(ICT)産業
<input type="checkbox"/> かんがい	<input type="checkbox"/> ヒンドゥー教	<input type="checkbox"/> 経済格差	<input type="checkbox"/> 二期作	<input type="checkbox"/> バイブライシ
<input type="checkbox"/> 稲作	<input type="checkbox"/> キリスト教	<input type="checkbox"/> 環境問題	<input type="checkbox"/> プランテーション	<input type="checkbox"/> 石油輸出国機構(OPEC)
<input type="checkbox"/> 畑作	<input type="checkbox"/> 都市化	<input type="checkbox"/> ハングル	<input type="checkbox"/> 工業団地	<input type="checkbox"/> 難民

節の振り返り2 節の問いについて、あなたの考えをまとめよう **思考・判断・表現**

国・地域	経済成長の背景	経済成長によって生じた影響【○…よかった点、▲…課題点】
中国	①	②
韓国	・外国の資金・技術の援助 ・ICT産業の育成	○ICT産業の発展で経済は力を取り戻した ▲人口と政治や経済がソウルに極集中し、農村との格差が生じた
東南アジア	・工業団地に外国企業を招く ・ASEANの結成	○工業化により、都市部の産業が発展し、ASEAN経済共同体(AEC)などによって貿易や交流が活発化 ▲都市にスラムができた、交通渋滞や大気汚染などの問題が生じたりした
南アジア	③	④
中央アジア・西アジア	・原油や石油製品の輸出 ・恵まれた鉱産資源	○原油や石油製品の輸出で得た利益で、産業を発展させ、交通網・通信網の整備や教育などに生かした ▲資源が少ない国々の発展の遅れや、鉱産資源をめぐる利害関係の対立が生じる

1節の問いについて、図でまとめよう
◆この節の学習を振り返りながら、図②の①~⑥を理めて、アジア州における、経済成長の背景と地域への影響についてのまとめを完成させよう。

2節の問いについて、考えを深めよう **対話**
◆図②をもとに、アジア州の経済成長とそれによる地域への影響を表す写真を、教科書やウェブサイトなどから1枚選ぼう。
◆グループになって、選んだ写真とその理由を発表しよう。そして、あなたたちだけの「写真で眺めるアジア州(→p.46~47)」をつくり、地域の特色を示すイラストをつけよう。

3節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう
◆図②と④をもとに、アジア州の特色を文章で簡単にまとめよう。

1節の問い
○アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。
○ヒント1 アジア州に共通する経済成長の背景や特徴は？
○ヒント2 経済成長によってよかった点と課題点は？

振り返り **主体的な学び**
●節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことがよくできた □できた □あまりできなかった
●節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。

振り返り2-① 地域的特色を思考ツールにまとめる

図②では、各見開きの学習を振り返りながら、地域的特色を思考ツールにまとめられるようにしています。思考ツールにまとめることで、学習内容の整理ができるようにしています。

振り返り2-② 対話を通して考えを深める **NEW**

①をもとに、グループで話し合いながらオリジナルの「写真で眺める」(本資料p.32)をつくれるようにしています。

振り返り2-③ 節の問いを踏まえて地域的特色をまとめる

①と②をもとに、地域の特色を自分の言葉で文章にまとめられるようにしています。

「主体的・対話的で深い学び」へ

↓巻頭9

考えを整理する方法 ~思考ツールを活用しよう~

- マトリックス
- ベン図
- ウェビング
- ステップチャート

QRコンテンツでは、次の思考ツールの解説や活用方法も紹介しています。確認してきましょう。
●マトリックス ●ベン図 ●ウェビング ●フラッシュカード ●フラッシュチャート ●ツールボックス

マトリックス

3 対象ごとに視点に沿って記入し、比較する。

	視点あ	視点い	視点う
対象A	○	×	○
対象B	○	○	×
対象C	×	×	○

↑QRコンテンツ 思考ツール「マトリックス」の活用手順説明動画

ポイント

思考ツールアイコン **思考ツール** 巻頭9 **NEW**

視覚的に分析したり考えを整理したりする際に用いる図や表を、**思考ツール**といいます。思考ツールを活用する場面には「思考ツールアイコン」を付し、活用を促しています。また、巻頭9とQRコンテンツでは、教科書で取り上げている思考ツールの紹介と、活用の手順を動画で説明しています。

思考ツールアイコン掲載ページ一覧(全8か所)

ページ	思考ツールの種類	ページ	思考ツールの種類
p.63	マトリックス	p.127	ステップチャート
p.79	マトリックス	p.181	ウェビング
p.89	ウェビング	p.231	マトリックス
p.90	ウェビング	p.279	ウェビング

振り返り1 **知識・技能の確認**

白地図で学習事項の確認ができるようにしています。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

対話を通して学びを深める「アクティブ地理」

アクティブ地理 AL

見方・考え方

人間と自然の関わり
場所

自然災害から命を守ろう —災害の危険性と防災情報の活用—



ワークシートなど

学習課題

日本は豊かな自然に恵まれている一方で、自然災害が多く発生します。ここでは、イラスト地図を通して発生する可能性が高い自然災害について理解し、ハザードマップなどの防災情報を活用して、いつ発生するか分からない自然災害に備えよう。

1 イラスト地図から自然災害の危険性を考えよう

TRY1

- 1 あなたが図1の①のA~Dにいるとき、どのような自然災害の危険性があるのだろうか。周囲の自然環境などに注目して、起こりうる自然災害を挙げよう。
- 2 対話 Q1 Q2 のような判断の分かれ道(クロスロード)で、あなたは YES と NO のどちらを選択するのだろうか。そのように判断した理由をグループで話し合おう。

Q1 YES or NO

あなたは(自宅)にいます。台風の接近に伴い、昼過ぎから雨が激しくなり、午後6時には気象庁から大雨・洪水警報が発表されました。しかし、地元自治体からの避難指示が出ているのかどうか、分かりません。この時点であなたは避難を始めますか？

Q2 YES or NO

結局、そのまま自宅にとどまることにしました。その後、雨の降り方がひどくなり、避難しようと考えましたが、暗くて自宅周辺の状況も分かりません。その際、あなたは自宅の2階に避難しますか？ それとも200mほど離れたビルに避難しますか？



↑自宅や学校の周辺の様子を表した地図

NEW

「主体的・対話的で深い学び」を実践する特設「アクティブ地理」を新設しています。(全4テーマ)対話を通して課題に粘り強く向き合う姿勢や、他者との意見交換を通して合意形成を目指す態度を身に付けられるようにしています。

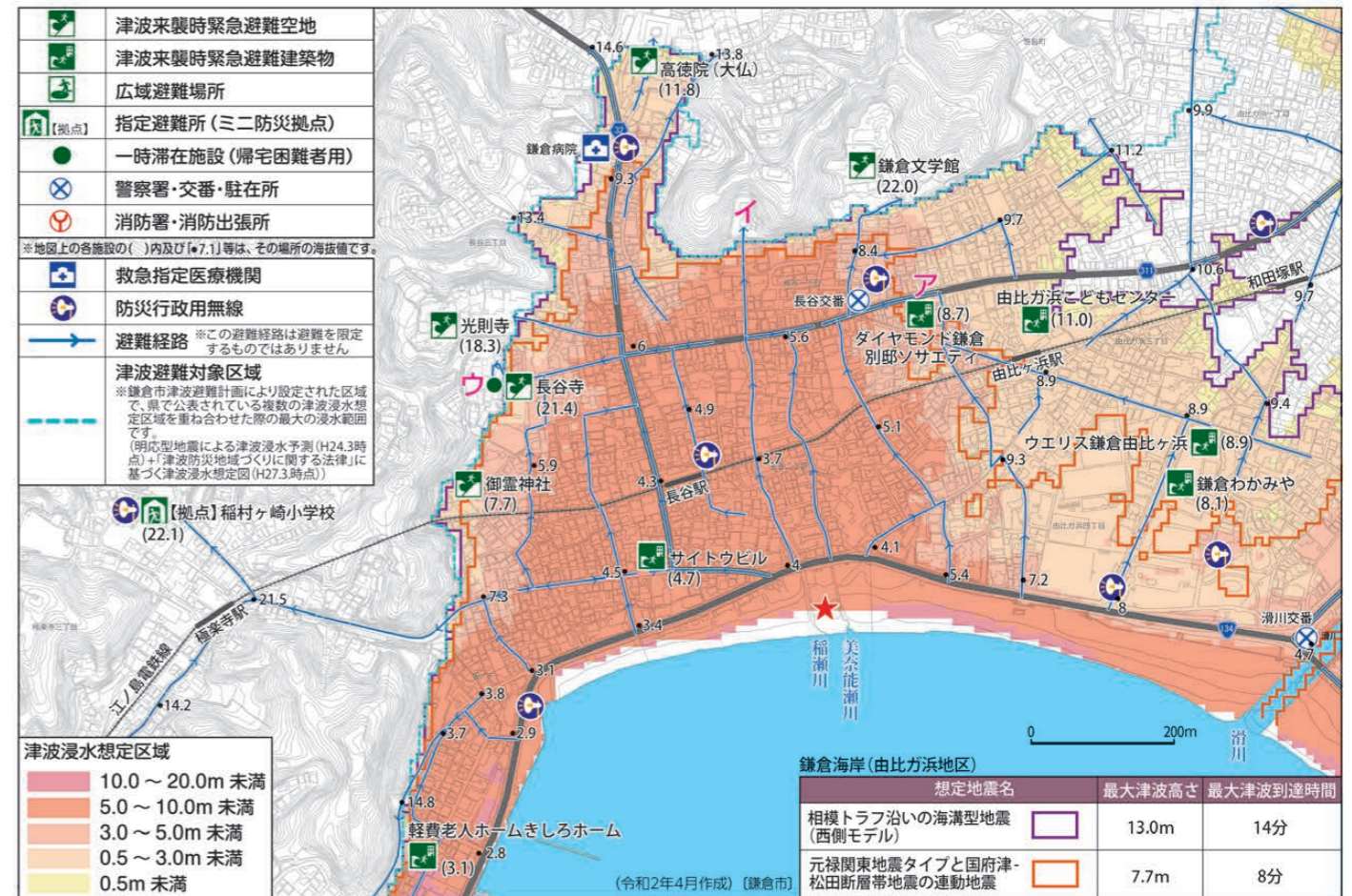
↓p.150-151 クロスロードやハザードマップを使って、防災・減災に対する実践的な知識・技能を習得できます。

2 ハザードマップを使って避難先を考えよう

原寸大

TRY2

- 1 図2の津波ハザードマップの「津波浸水想定区域」を見ると、長谷駅は何m浸水すると予測されているのだろうか。
- 2 あなたが図2の★の地点にいる時に、規模は分からないが津波発生を感じたら、ア〜ウのどこに避難すればよいのだろうか。津波到達時間も参考に、避難先と避難ルートを考えよう。
- 3 対話 あなたの考えた避難先・避難ルートを発表しよう。そして、なぜその場所・そのルートを選んだのかも説明しよう。



↑2 鎌倉市の津波ハザードマップ 自然災害の多い日本では、多くの地域でハザードマップの作成と配布が行われています。また、「ハザードマップポータルサイト」では、全国のハザードマップに関する情報を得ることもできます。

3 あなたが暮らす地域で起こりうる自然災害に備えよう

TRY3

- 1 写真3のような街なかにある防災に関する情報を、あなたが暮らす地域で見つけよう。また、インターネットなどを使って、防災に関わる情報を入手しよう。
- 2 あなたが暮らす地域のハザードマップを入手して、どのような自然災害の危険性があるのか、調べよう。
- 3 対話 2 で分かった自然災害に対して、日頃からどのような備えができるのかを考え、グループで話し合おう。



←3 津波からの安全な避難を人々に促す取り組みの例(神奈川県鎌倉市、2022年)

振り返り

- 自然災害の発生危険性を理解し、防災情報の入手方法やハザードマップの活用方法を身につけることができた。
- 根拠を明らかにし、自分の意見を表現できた。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

対話を通して学びを深める「アクティブ地理」

↓p.90-91 アフリカ州で見られる課題を考察し、解決への取り組みをSDGsと関連させて考えます。

アクティブ地理 AL

課題解決に向けた取り組みを考えよう

1 アフリカ州で見られる課題を振り返ろう

TRY1

- 教科書や地図などを振り返り、アフリカ州で見られる課題をいくつか書き出そう。
- 書き出した課題の中から、あなたが興味を持った課題を選び、それがどのような課題(ほかの課題や関連する課題)と関連しているのか、図解・表を参考にまとめる。

2 課題解決に向けた取り組みを調べ、あなたの考えをまとめよう

TRY2

- あなたが興味を持った課題や、それに関連する課題について、図解・表などで「だれが」「どのような取り組みを行っているか、課題やインフラ」などを調べよう。
- 調べた取り組みは、持続可能な開発目標(SDGs)とどのような関係があるのか、考えよう。
- 調べた取り組みのなかで、どれを授業で行うことが大切か、検討しよう。また、その理由を書き出そう。

3 課題解決に向けて最優先で行う取り組みを考えよう

TRY3

- 調べた課題や取り組みについて、あなたが考えるべき優先順位を付けよう。
- 優先順位を付けて、取り組みの優先順位を決定しよう。
- 優先順位を決定したら、取り組みの優先順位を決定し、自分の意見を表現しよう。

↓p.214-215 京都が魅力的な観光地であり続けるための取り組みを、観光客と住民の立場から考えます。

アクティブ地理 AL

持続可能な観光について考えよう

1 【観光客の立場】観光地 京都の魅力を見つけよう

TRY1

- 京都にはどのような神社仏閣、観光名所があるのだろうか。地図やインターネットなどで調べ、行ってみたい所を3つ書き出そう。
- 京都には、どのような料理や食文化があるのだろうか。インターネットなどで調べ、食べてみたいものを3つ書き出そう。
- 京都を訪れる観光客は、どのようなことを楽しみたいのだろうか。書き出したものを発表し、京都の魅力について話し合おう。

2 【住民の立場】京都に暮らす人々の努力を調べよう

TRY2

- 京都らしい景観を保全するために、京都ではどのような取り組みが行われているのだろうか。また、どのような努力や課題があるのか。図解やインターネットなどで調べよう。
- 京都の歴史や文化を守るために、京都の歴史や文化を守るための取り組みを調べよう。
- 京都を訪れる観光客は、どのようなことを楽しみたいのだろうか。書き出したものを発表し、京都の魅力について話し合おう。

3 複数の立場から持続可能な観光に向けた取り組みを考えよう

TRY3

- これらからも魅力的な観光地であり続けるためには、どのような取り組みが必要だろうか。観光客や住民の立場から、あなたの考えを整理しよう。
- 書き出した考えをグループで発表し、取り組みを深めるうえで話し合おう。

地域に見られる課題について、単元の学習を生かして考察することで、単なる知識・技能ではなく、「生きて働く知識・技能」を定着させることができるようにしています。また、歴史や公民とも関連したテーマを設定し、多面的・多角的に考えられるようにしています。

↓p.281-282 「脱炭素社会の実現」に向けて、地域の自然環境を生かした再生可能エネルギーによる発電方法が適しているか考えます。

アクティブ地理 AL

地域に適した再生可能エネルギーを考えよう

1 再生可能エネルギーを使った発電方法の特徴を知ろう

TRY1

- 再生可能エネルギーは、日本で行われている再生可能エネルギーを利用した主な発電方法です。再生可能エネルギーの種類や特徴、インフラなどについて調べよう。
- 再生可能エネルギーの種類や特徴、インフラなどについて調べよう。

2 地方ごとの発電方法の特徴を考えよう

TRY2

- 各地方の発電方法の特徴はどのような特徴があるのか、表で整理しよう。
- あなたが暮らす地方では、再生可能エネルギーを利用した発電方法の割合はどのくらいあるのだろうか。図解で整理しよう。
- あなたが暮らす地方では、なぜ再生可能エネルギーの割合が高くなっているのだろうか。p.140~147や各地方の自然環境の学習を振り返り、地形や気候の特徴などに注目して、グループで話し合おう。

3 地域の自然環境を生かした発電方法を考えよう

TRY3

- このページでは、自然環境に着目して、再生可能エネルギーを利用した発電方法を考えましたが、発電費用や供給の安定性など、さまざまなことを考えることが大切です。公民的分野の学習では、経済的なことも考えながら、エネルギーのバランスを考えていきましょう。

再生可能エネルギーの種類	特徴
水力発電	大規模なものは、ダム建設に伴う環境への配慮が必要である。また、水質汚濁や土砂崩れなどの課題がある。
風力発電	大規模なものは、送電線が通らない地域に設置される。また、騒音や景観への配慮が必要である。
太陽光発電	大規模なものは、送電線が通らない地域に設置される。また、土地の確保や送電線の敷設が必要である。
地熱発電	大規模なものは、送電線が通らない地域に設置される。また、地熱資源の枯渇や環境への配慮が必要である。

ポイント

対話アイコン

他者とのやり取りを通じて思考を広げる問いや学習課題には「対話アイコン」を付しています。対話を通して自らの考えをより深めるとともに、他者の意見を尊重する態度を身に付けられるようにしています。p.152、225ほか全51か所に設置しています。

活動を促すさまざまなパフォーマンス課題

習得した知識や技能を使って実践的に考えていくパフォーマンス課題を設定しています。ペーパーテストでは測りにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに最適です。

対話を中心とした活動型学習

正解がひとつでない課題に対して、意見交換や発表をする対話型の学習活動を多く設定しています。対話を通した「深い学び」が実現できるようにしています。

「見方・考え方」の活用

ページ全体で動かせる「見方・考え方」を明示しています。「見方・考え方」を動かせることで、地理的分野の資質・能力を育成できるようにしています。

他分野とのつながり

例えば、p.281-282「地域に適した再生可能エネルギーを考えよう」では、電力の供給には発電費用や供給の安定性などを考慮する必要を示し、公民的分野の経済単元との関連を示唆しています。

このページでは、自然環境に着目して、再生可能エネルギーを利用した発電方法を考えましたが、発電費用や供給の安定性など、さまざまなことを考えることが大切です。公民的分野の学習では、経済的なことも考えながら、エネルギーのバランスを考えていきましょう。

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

SDGsに関する具体的な地域事例を多数掲載

巻頭「未来に向けて よりよい社会を目指して」

巻頭で、SDGsの17の目標とその実現に向けた世界と日本の取り組みを紹介しています。帝国書院の歴史的分野・公民的分野の教科書でも同様のページを設置し、中学校社会科の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけられるようにしています。



↑巻頭1-2

「未来に向けて」掲載ページ一覧(全40か所)

	環境・エネルギー	人権・多文化	情報・技術	防災	平和・安全	伝統・文化
アジア州		p.61			p.55	
ヨーロッパ州	p.73, 75					
アフリカ州		p.85				
北アメリカ州		p.97			p.95	
南アメリカ州		p.111				
オセアニア州	p.121, 125					
九州地方	p.173, 177, 182			p.171		
中国・四国地方			p.198	p.187	p.189	
近畿地方	p.209	p.205		p.203		p.216
中部地方	p.223		p.232	p.221		p.229
関東地方		p.243	p.248	p.237		
東北地方					p.253, 264	
北海道地方	p.275, 277	p.280		p.269		
その他	p.156-157		p.161, 290	p.149		

巻頭1-2「よりよい社会を目指して」

地域的・地球的課題の解決に取り組む視点を養う「未来に向けて」を40か所に設置しています。各地の取り組みから、よりよい未来を構想するためのヒントを得られるようにしています。

特設ページ・コラム「未来に向けて」

歴史的分野・公民的分野と共通する「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマから、未来の社会をつくる取り組みを紹介しています。

未来に向けて 野生動物との共存を目指して

北海道に生息するエゾヒグマは、日本最大の陸上動物です。アイヌ民族は、エゾヒグマをキムンカムイ(山の神)とよび、神様の化身として大切に、毛皮や肉は「神様から人間への贈り物」として利用してきました。1960年代以降、駆除を進める政策によって頭数が激減しましたが、1990年ごろからヒグマと人間の共存が目指され、近年は急回復しています。そのため、札幌市では、人里へのヒグマの侵入による人身事故や農業被害の発生を防ぐために、ヒグマと人間のすみ分けを図っています。例えば、里山や草地の適切な手入れや、電気柵の設置などを進めています。

→ 電気柵の近くを歩くエゾヒグマ(札幌市)

↑p.277

未来に向けて 世界とつながる平和記念都市、広島

長崎市とともに第二次世界大戦で原子爆弾(原爆)の被害を受けた広島市は、平和記念都市として世界の平和を求め、核兵器の悲惨さを発信しています。その活動の一つが修学旅行の誘致です。国内各地から来る修学旅行生は年間30万人を超え(2019年)、世界文化遺産に登録された原爆ドームなどを見学したり、被爆者の話を聞いたりしながら、命の尊さや平和の大切さを学んでいます。

→ 平和記念公園で「被爆ピアノ」の話を聞く修学旅行生(広島県広島市、2019年) 広島市では、原爆によって破壊されたピアノを修復する活動が行われてきました。修復された「被爆ピアノ」は、国内外のコンサートなどで使用されています。

↑p.189

未来に向けて 芸術祭による地域おこし

新潟県十日町市と津南町の一帯では、地域の自然景観や建築物などを生かして芸術家が作品を制作する芸術祭が開催されています。棚田や廃校となった校舎を利用した作品などが制作され、運営と制作には地域住民やボランティアも参加しています。こうした芸術祭は、現在では日本各地で開催されるようになり、地域資源の見直しや住民参加の地域おこしにつながっています。

→ 田園風景のなかに飾られた芸術作品(新潟県十日町市、2022年7月)

↑p.229

未来に向けて 未来の命を守る「女川いのちの石碑」

「女川いのちの石碑」は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって起こった津波(→p.146)の被害を後世に伝え(→巻頭2)、未来の命を守るために設置されています。震災当時、小学6年生だった宮城県女川町の子もたちが中心となり、津波が襲ってきた地点よりも高い場所に石碑を建て、避難の目印とすることで多くの命を守ろうとしています。町内にある21の浜に建立する費用の寄付金を集め、2021年に最後の石碑を建てることができました。建立した石碑をこれからの防災に役立たせていくことが期待されています。

↑ 女川町立女川中学校に建てられた21番目の石碑(宮城県女川町、2021年)

↑p.253

未来に向けて 公共交通を活用したまちづくり

これまでの日本は、人口増加に伴って市街地が中心部から郊外へと広がっていききました。しかし、人口減少に伴って市街地が広がり過ぎたことで移動が不便になるなどの課題が生じています。栃木県の前橋駅周辺では、人口減少に伴って市街地が広がり過ぎたことで移動が不便になるなどの課題が生じています。栃木県の前橋駅周辺では、人口減少に伴って市街地が広がり過ぎたことで移動が不便になるなどの課題が生じています。栃木県の前橋駅周辺では、人口減少に伴って市街地が広がり過ぎたことで移動が不便になるなどの課題が生じています。

↑ 次世代型路面電車システム(LRT)の車両(上)と道路の中央部に線路が敷かれた宇都宮駅東口付近の様子(右)(栃木県宇都宮市、2022年)

↑ アマンドクシーを利用する人(栃木県宇都宮市、2023年) 専用の乗り場のほか、自宅から乗ることもできます。

↑p.248

未来に向けて 多文化の共生を目指す大泉町

自動車関連工場が多い群馬県大泉町には、工場で働く日系ブラジル人とその家族が多く住んでいます。町にはポルトガル語の表示やブラジルの食材を売る店がみられ、学校には日系ブラジル人の生徒がたくさん通っています。このため大泉町は、小中学校に日本語学級を設けてボランティアによる日本語・ポルトガル語講座を開いたり、ポルトガル語の生活ガイドブックをつくらしたりして、異なる文化をもつ人々が暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

→ ブラジルの食材が売られているスーパーマーケット(群馬県大泉町、2018年)

↑p.243

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

SDGsに関する具体的な地域事例を多数掲載

SDGs11「住み続けられるまちづくりを」にも関連する「防災」については、特に丁寧に扱っています。また、第4部「地域のあり方」では、地理的分野のまとめとして、「持続可能な社会の実現」に向けた探究活動に取り組めるようにしています。

4 日本のさまざまな自然災害

2 種類の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

学習課題 日本では、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

地震と火山災害 日本は、変動帯に位置しているため地震が多く、各地に分布する火山の活動も活発です。大

↑p.146

5 自然災害に対する備え

2 種類の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

学習課題 自然災害からの被害をいかに減らしたりするために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

防災・減災の取り組み 災害を引き起こす地震や豪雨、台風などの自然現象そのものを止めることはできません。日本では、

↑p.148

アクティブ地理

自然災害から命を守る 災害の危険性と防災情報の活用

1 イラスト地図から自然災害の危険性を考えよう

2 ハザードマップを使って避難先を考えよう

3 あなたが暮らす地域で起こりうる自然災害に備えよう

↑p.150-151

防災

本文(p.146-149)で、日本で発生する自然災害と防災・減災への取り組みを学び、「アクティブ地理」(p.150-151)では、クロスロードやハザードマップを用いて、自分たちの住む地域に必要な備えについて考えられるようにしています。

日本で発生する自然災害について記述しています。地形や気候などの自然条件との関わりを理解できるようにしています。

防災や減災への取り組みを理解できるようにしています。災害発生時の公助・自助・共助とともに、どう行動すべきか日頃から考えておくことの大切さを記述しています。

これまでの学習で身に付けた知識・技能を生かして、クロスロードに取り組んだり、ハザードマップの読み取りを行い、自分の住む地域で起こりうる自然災害と、災害に対する備えを「自分ごと」として考えられるようにしています。

第1章 地域のあり方



↑六甲山地を背にした神戸市中心部(神戸市中央区、2018年)



↑観光客でにぎわういちご農園(神戸市北区)



↑日本三大中華街の一つ神戸南京町(神戸市中央区、2022年)



↑内陸部に開発された西神ニュータウン(神戸市西区、2023年)

1 追究するテーマを決めよう



284

↑p.284

地域のあり方

地理的分野のまとめとして、これまでの学習で身に付けてきた知識・技能や思考力、判断力、表現力を生かして、テーマ設定→実態調査→課題の考察→解決策の構想→解決策の提案に取り組めるようにしています。一連の流れと方法を具体的に示すことで、無理なく実践できるようにしています。地域の課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組むことで、課題を「自分ごと」として捉え、主体的に社会に参画する態度を養えるようにしています。

「個別最適な学び」を支援するコンテンツ

一人一台端末で活用できるQRコンテンツ

QRコンテンツを1,705用意し、「個別最適な学び」を支援しています。

教科書のもくじや中面の随所、裏表紙に掲載している

QRコードからアクセスできるようにしています。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。 ※通信料は別途かかります。
※コンテンツの数および内容は、変更になる可能性があります。

こちらからお試し
いただけます。



<https://tks46.jp/07jhs/geo>

社会科 中学生の地理

写真で眺める
(学習の見通し)

学習を振り返ろう

アクティブ地理

図解アニメーション

用語解説

NHK for School

他分野教科書リンク

統計資料

思考ツール・白地図

地域見える化 GIS
ジオグラフ

小学校の振り返り
(クイズ付き)

教科書を活用した
学び方

リンク集

利用規約

単元別メニュー

帝国書院

↑メニュー画面

学習内容を定着させるコンテンツ (**定着**) や、学習内容を深化させるコンテンツ (**深化**) を収録しています。
「単元別メニュー」では各コンテンツを単元ごとに分類し、学習する単元で活用できるコンテンツがすぐに見つかるようにしています。

QRコンテンツ一覧

コンテンツ	QRコードの教科書掲載ページ	収録数	
1 写真で眺める (学習の見通し)	p.47, 65, 81, 93, 107, 119, 169, 185, 201, 219, 235, 251, 267	13	NEW
2 学習を振り返ろう	p.13, 25, 42, 62, 78, 88, 104, 116, 126, 165, 180, 196, 212, 230, 246, 262, 278	3種×17単元	NEW
3 アクティブ地理	p.90, 150, 214, 281	30	NEW
4 図解アニメーション	p.8, 10, 11, 12, 17, 24, 29, 43, 44, 153	20	
5 用語解説	p.294	385	NEW
6 NHK for School	p.2, 14, 26, 48, 66, 82, 94, 108, 120, 128, 140, 170, 186, 202, 220, 236, 252, 268, 284	163	増補
7 他分野教科書リンク	巻頭1-2, p.282	35	NEW
8 統計資料	p.2, 14, 26, 48, 66, 82, 94, 108, 120, 128, 140, 170, 186, 202, 220, 236, 252, 268, 284	日本87・世界74	NEW
9 思考ツール・白地図	巻頭9	思考ツール21・白地図93	NEW
10 地域見える化GIS ジオグラフ	p.138, 287	79	NEW
11 小学校の振り返り (クイズ付き)	p.4, 22, 167, 183, 199, 217, 233, 249, 265	地図クイズ5・リンク620	NEW
12 教科書を活用した学び方	巻頭5	2	NEW
13 リンク集	p.91, 132	27	NEW
単元別メニュー	p.2, 14, 26, 48, 66, 82, 94, 108, 120, 128, 140, 170, 186, 202, 220, 236, 252, 268, 284	—	NEW
		全1,705	



写真で眺める (学習の見通し)

定着

NEW

第2部第2章「世界の諸地域」と第3部第3章「日本の諸地域」の学習の導入ページ「写真で眺める」を動画にしています。学習の見通しを立てられるようにしています。

全13点

→九州地方の動画



学習を振り返ろう

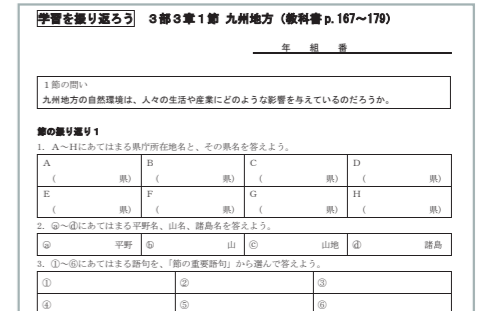
定着

NEW

章・節末にある「学習を振り返ろう」ページに対応したワークシート (Wordデータ・PDFデータ) と、「章・節の振り返り1」の解答 (PDFデータ) を収録しています。端末上で単元の振り返りができるようにしています。

全51点

→九州地方のワークシート



アクティブ地理

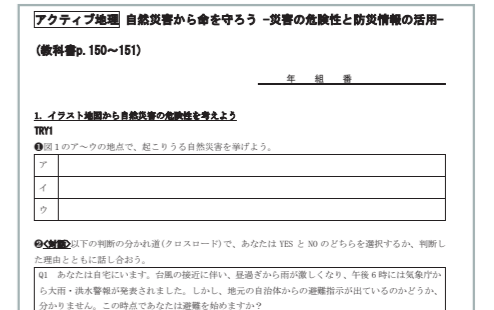
定着

NEW

「アクティブ地理」ページに対応したワークシート (Wordデータ・PDFデータ) と、参考となるサイトへのリンク集、他分野教科書のページを収録しています。端末を活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしています。

全30点

→「自然災害から命を守ろう」ワークシート



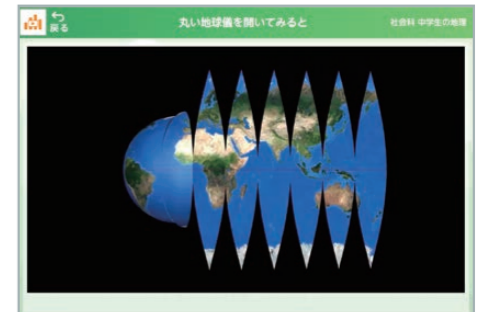
図解アニメーション

定着

地理で習得したい技能について動画で解説しています。文章だけではわかりにくい学習事項をアニメーションで図解し、理解しやすくしています。

全20点

→丸い地球儀を開いてみると



個別最適な学びを支援するコンテンツ

一人一台端末で活用できるQRコンテンツ

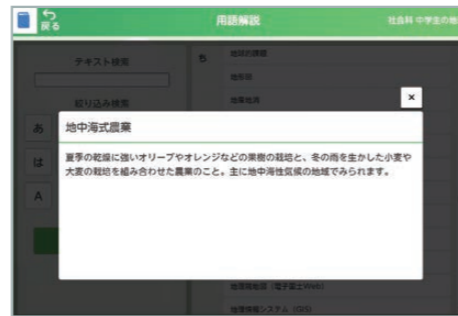


用語解説 深化 NEW

教科書に掲載している用語の定義や意味を収録しています。検索機能もあり、調べたい用語をすぐに確認できるようにしています。

全385語句

→「地中海式農業」の解説



NHK for School 深化

NHK for Schoolへのリンクを単元ごとに収録しています。具体的な映像で知識定着が図れるようにしています。

全163点

→九州地方の動画一覧



他分野教科書リンク 深化 NEW

学習に関連する帝国書院の歴史的分野と公民的分野の教科書および、地図帳紙面を収録しています。多面的・多角的に考察できるようにしています。

全35点

→SDGsに関連した公民的分野教科書の紙面



統計資料 深化 NEW

世界・日本のおもな統計を収録しています。ワンクリックで地図やグラフも表示できるようにしています。統計データは毎年更新しています。信頼の置ける出典のデータを利用できます。

全161点(日本87点・世界74点)

→コーヒー豆の生産

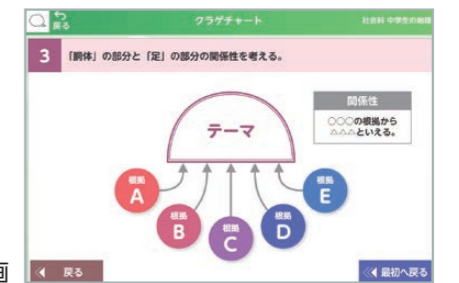


思考ツール・白地図 深化 NEW

思考ツール(本資料p.35-36)の解説動画とデータ(PDFデータ)および、白地図データへのリンクを収録しています。多様な手法で思考を深められるようにしています。

思考ツール21点
白地図93点

→クラゲチャートの活用手順解説動画



地域見える化GISジオグラフ 深化 NEW

さまざまな統計データを、地図上にグラフで表示できるGIS教材を収録しています。特に「地域のあり方」単元の学習に最適です。

全79テーマ

→福岡県の人口分布

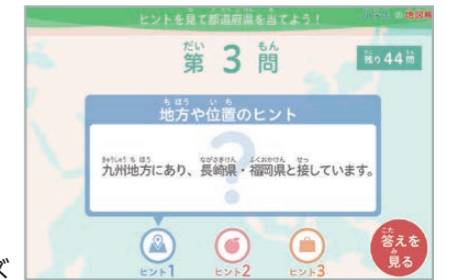


小学校の振り返り(クイズ付き) NEW

地図に関するクイズと、都道府県や国の情報を閲覧できる帝国書院ウェブサイトへのリンクを収録しています。復習や調べ学習に最適です。

地図クイズ5点
リンク620点

→スリーヒントクイズ

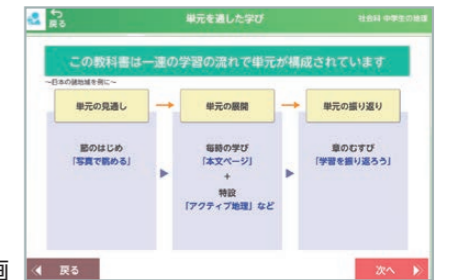


教科書を活用した学び方 NEW

「単元を通した学び」と「毎時の学び」を動画で解説しています。学習の流れを把握できるようにしています。

全2点

→「単元を通した学び」の解説動画



リンク集 NEW

学習に関連する外部サイトへのリンク集を収録しています。調べ学習などで活用できるよう、テーマごとにまとめています。

全27点

→SDGsに関連するウェブサイトへのリンク集



「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫

「地理的な見方・考え方」*を働かせた考察ができるよう、資料や本文を工夫しています。教科書の巻頭8では、「地理的な見方・考え方」とは何か、具体的な事例を示しながら端的にわかりやすく説明しています。

* 「地理的な見方・考え方」とは、「位置や分布」「場所」「人間と自然の相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の5つを指します。

ポイント

見方・考え方アイコン

見方・考え方 アイコン 地域の特徴 (→巻頭8)

NEW

「見方・考え方アイコン」掲載ページ一覧(全21か所)

ページ	地理的な見方・考え方
p.13	位置や分布
p.25	位置や分布
p.42	人間と自然の関わり
p.62	地域の特徴
p.78	地域の特徴
p.88	地域の特徴
p.90	他地域との結びつき・地域の特徴
p.104	地域の特徴
p.116	人間と自然の関わり
p.126	他地域との結びつき
p.150	人間と自然の関わり・場所
p.165	分布や地域の特徴
p.180	人間と自然の関わり
p.196	他地域との結びつき
p.212	地域の特徴
p.214	場所・地域の特徴
p.230	地域の特徴
p.246	地域の特徴
p.262	地域の特徴
p.278	人間と自然の関わり
p.281	人間と自然の関わり・地域の特徴

「学習を振り返ろう」ページでは、単元の振り返りで働かせる「地理的な見方・考え方」を、「アクティブ地理」ページでは、課題に取り組む中で働かせる「地理的な見方・考え方」を、「見方・考え方アイコン」で示しています。(全21か所)



↑巻頭8

どこにあるのだろうか・どのように広がっているのだろうか

位置や分布

京阪神大都市圏と水の都、大阪 都市圏は、東京大都市圏に次いで人口が集中している地域です。

例)「千里ニュータウンはどこにあるのだろうか？」
→大阪府の西部に位置する。
例)「京阪神大都市圏はどのように広がっているのだろうか？」
→京都・大阪・神戸を中心に広がっている。

どのような場所だろうか

場所

例)「京阪神大都市圏はどのような場所だろうか？」
→東京大都市圏に次いで人口が集中しており、大阪を中心に交通網が周辺に伸び、沿線に市街地が広がっている。1960年代には郊外にニュータウンが建設された。

京阪神大都市圏と水の都、大阪 都市圏は、東京大都市圏に次いで人口が集中している地域です。大阪市を中心に鉄道や道路が周辺に伸び、沿線に市街地が広がっています。京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地に千里・泉北・須磨などのニュータウンがいくつも建設されました。六甲山地が海岸まで迫って平畑

どのような特徴がある地域なのだろうか

地域の特徴 (地域)

例)「京阪神大都市圏の特徴は？」
→京都・大阪・神戸を中心に広がり、多くの人口が集中している。その人口を支えているのが琵琶湖を水源とする琵琶湖・淀川水系であり、流域の水質保全のための取り組みが行われている。

他の場所とどのように結びついているのだろうか

他地域との結びつき (空間的相互依存作用)

例)「京阪神大都市圏のつながりは？」
→琵琶湖が水源となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域の環境保全が重要な課題となっている。

琵琶湖・淀川 琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。

人々の生活は、周囲の環境とどのように関わり合っているのだろうか

人間と自然の関わり (人間と自然の相互依存関係)

例)「琵琶湖・淀川の水質保全のために、京阪神大都市圏ではどのような取り組みが行われているのだろうか？」

ようになり、水道水への影響が問題になりました。このため、琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかける運動を始め、滋賀県も下水道の整備や工場排水の制限に取り組みました。その結

きました。近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天

→過去に琵琶湖周辺の住民は、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかけ、県も下水道の整備や工業排水の制限に取り組みだ。近年はヨシを湖岸に植え、水質改善に取り組んでいる。

【例】p.204-205 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

琵琶湖・淀川 琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。

琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかける運動を始め、滋賀県も下水道の整備や工場排水の制限に取り組みました。その結果、近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天竺鯛の復活をめざして、市民と行政、研究者が協力して、生息場所の確保や外来魚の駆除などに取り組んでいます。

その他の特色 「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫

「地理的な見方・考え方」を働かせる工夫

地図帳やさまざまな資料を活用しながら「地理的な見方・考え方」を働かせて考察できるよう、「地図帳活用」アイコンや「技能をみがく」を設置しています。

ポイント

地図帳の活用

地図帳との連携を図ることで、位置や分布、他地域との結びつきなどを地図上でとらえ、学習をより深められるようにしています。また、「地図帳活用」**地図帳活用**を全56か所(p.3、16、26、72、128、156、175など)に設置し、活用を促しています。

5 環境に配慮した林業と漁業

3部の違い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

近畿地方では、森林の保全や水産資源の保護のために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

林業が盛んな紀伊山地 雨が多く温暖な気候が木の生育に適している紀伊山地には、豊かな森林が広がっています。急斜面の多い険しい山地であるにも関わらず、森林の多くは人が育った人工林で、すぎやひのきなどが植えられています。これらの人工林では、樹木の成長に合わせて伐採と植林が繰り返され、長打ため船着かんの系えられた行っ樹木の森アス社業が、主ノから行われてきました。特に奈良県の「吉野すぎ」や三重県の「尾鷲のき」は、巴か美しく香りもよいことから、建築材や家具などに加工され、高品質な木材のブランドとして知られています。

林業の課題 紀伊山地の森林には、出荷に適した樹齢60年ほどのすぎやひのきが豊富にあります。しかし、安い外国産木材の輸入が増えたことで、木材価格が低迷したため、伐採量はほとんど増えていません。

また、山間部では高齢化によって林業の働き手が減り、森林を管理する技術を受け継ぐ後継者が不足しており、荒れてしまう森林が増えています。そこで新たに林業に従事する人を増やすために、林業の知識や技能が習得できるよう国が支援する「緑の雇用」制度や自治体独自の支援制度が設けられています。これらを利用して林業の仕事に就く人が増え、山間部に移住してくる人もみられるようになりました。

210 小学校・歴史 公民・他教科との関連 日本の林業水産業(小・中・高) 地球温暖化(小・中・高)

↑p.210

12 尾鷲の林業 50年 多様な役割と森の恵み

自然林・二次林 人が樹林などを行わない森林で、水産林や高付林に利用される。

人工林 人の手によって樹林や伐採が行われる森林。

水源保護林 災害防止林 樹林地 吉野系国立公園(森林保護地区) 土砂崩れ 森林の役割

日本の木材供給量の変化 2021年 1960年 7147万m³ 89.2% 10.8

日本の木材の輸入先 2022年 中国 18.3% 81.7

尾鷲市による森林活動

3 地図帳活用 三重県尾鷲市の林業の様子を確認しよう。

「地図帳活用」では、尾鷲の林業の様子を地図帳で確認するよう促しています。

←地図帳p.116

ポイント

技能をみがく

写真や地図、グラフを読み取る技能を着実に習得できるよう、「技能をみがく」を全21テーマ設置しています。

技能をみがく 11 主題図の読み取り方

地図には、地形図(p.130)や日本全国のように、地形や地名、道路などのさまざまな情報を、特定のテーマに集めることなく描いた一般図のほかに、特定のテーマを詳しく描いた地図があり、これを主題図といいます。なかでも、統計資料を地図に表したものは、統計地図ともよばれます。

地理の学習では、統計資料を読み取るだけでなく、その分布の傾向から、地域の特徴をつかむことも大切です。統計地図には、表した統計資料の種類によって、さまざまな表現方法があります。また、複数のテーマの統計地図を比較すると、1枚の統計地図からは分からなかったことが読み取れることがあります。

1 やってみよう

- 図1のCの統計地図を見て、日本企業の進出が多い所はどの辺りか、答えよう。
- 図2のBの統計地図を見て、人口密度が高い所はどの辺りか、答えよう。
- 図3のAとBの統計地図を比較して、降水量と小麦の生産には、どのような関係があるのか、答えよう。

さまざまな統計地図

- ドットマップ 分布地点の数を点(ドット)で表した図です。人口や生産量などの集中の度合いが読み取りやすくなります。
- 等値線図 等しい数値の地点を線で結んだ図です。気温を示した等温線図、降水量を示した等降水量線図などがあります。
- 地形表現図 円や正方形などの図形やイラストの大きさによって、地域ごとの統計数値を比較できるようにした図です。
- 階級区分図 地域ごとの比率や密度を、色や模様などで表現した図です。

線が引かれている所に注目すると、南部で降水量が多く、北部で降水量が少ないことがわかります。

点(ドット)が集まる所に注目すると、西部より東部で米や小麦の生産が盛んであることがわかります。東部のなかでも、北側では小麦、南側では米を生産していることがわかります。

円が大きい所に注目しよう。

階級によって分けられている色に注目しよう。

↑p.44

主題図の読み取り方

主題図の読み取りに関する技能を身に付けられるようにしています。主題図が多く登場する、第2部第2章「世界の諸地域」の学習の前に設置しています。

地形図の使い方

地形図の読み取りに関する技能を身に付けられるようにしています。地形図は、地域調査で使用することを想定し、第3部第1章「身近な地域の調査」の中に設置しています。

技能をみがく 14 地形図の使い方③ ~等高線と断面図~

地形図には、土地の起伏を表現するために、地表の同じ高さの所を結んだ等高線が描かれています。等高線には、さまざまな種類があり、その種類によって読み取りやすくなります。等高線の間隔が広いほど地表の傾斜は緩やかで、等高線の間隔が狭いと傾斜が急になります。山頂や谷間の等高線の間隔が狭い数字は、その場所の標高を示しています。

等高線の種類

断面図の読み取り方

断面図から読み取る谷と山頂 断面図が描かれている所を、等高線が谷の間に描かれている所が谷で、谷の方向に描かれている所が山頂になります。

断面図と、谷の断面図の読み取り方

1 やってみよう

図5の断面図を完成させ、等高線の間隔と地表の傾斜の関係を確認しよう。

↑p.133

「技能をみがく」掲載ページ一覧(全21テーマ)

ページ	タイトル
p.5	地図帳の統計資料の使い方
p.9	緯度・経度を使った都市の位置の表し方
p.11	地球儀での距離と方位の調べ方
p.12	地図帳のさくいの引き方
p.12	世界の略地図の描き方
p.17	時差の調べ方
p.24	日本の略地図の描き方
p.27	写真の読み取り方
p.29	雨温図の読み取り方
p.43	グラフの作り方
p.44	主題図の読み取り方

ページ	タイトル
p.130	地形図の使い方① ~地図記号と縮尺~
p.132	地形図の使い方② ~「地理院地図」~
p.133	地形図の使い方③ ~等高線と断面図~
p.133	地形図の使い方④ ~新旧の地形図の比較~
p.135	ルートマップの作り方
p.137	調査ノートの取り方
p.137	聞き取り調査の手法
p.153	人口ピラミッドの読み取り方
p.292	展示発表のしかた
p.293	プレゼンテーション資料の作り方

社会科3分野共通の特色

① 3分野の連携を図った10のポイント

社会科3分野(地理・歴史・公民)での連携や、小学校との連携を図っています。「小・歴・公」アイコンを設置したり、「小学校・歴史・公民・他教科との関連」コーナーで関連する学習事項を提示したりしています。

① 主体的・対話的な学びを促す「導入」

本資料p.5-10、13、19-20、29、32

▶写真やイラストを効果的に使った導入を設けています。興味・関心を高めるだけでなく、これから学ぶ内容を見通すことができます。

地理 ↓「写真で眺める」
教科書p.64-65など



歴史 ↓「タイムトラベル」
教科書p.134-135など



公民 ↓「学習の前に」
教科書p.116-117など

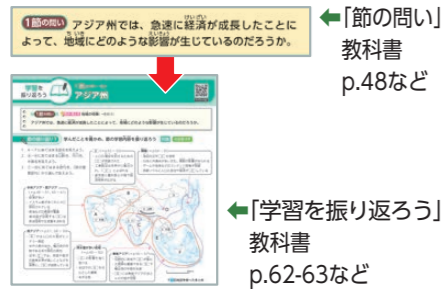


② 見通し・振り返りがしやすい単元構成

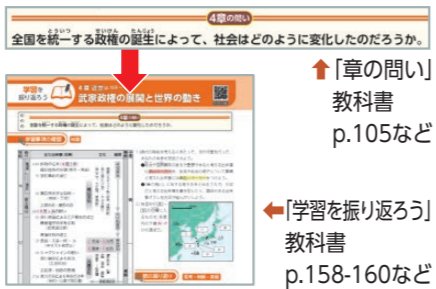
本資料p.29-36

▶単元の最初に設置している「章・節の問い」で学習の見通しを立て、章・節末の「学習を振り返ろう」で単元の振り返りができます。見通し・振り返り学習を積み重ねることで「章・節の問い」にせまれるよう、「問い」を構造化しています。

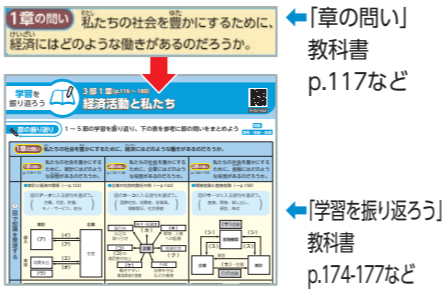
地理



歴史



公民



③ 「主体的・対話的で深い学び」を促す「アクティブ」

本資料p.37-40

▶設定されたパフォーマンス課題について、単元の学習を生かして考察し、他者との意見交換を通して学びを深めることができます。

地理 ↓「アクティブ地理」
教科書p.281-282など



歴史 ↓「アクティブ歴史」
教科書p.156-157など



公民 ↓「アクティブ公民」
教科書p.166-167など



④ 毎時間の学習における「問い」

▶章・節の「問い」を受けて、本文ページには「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設置し、学習の到達点を毎時間確認できます。

本資料p.30-31、33-34

地理

本文ページ
教科書p.50-51など

歴史

本文ページ
教科書p.148-149など

公民

本文ページ
教科書p.134-135など

⑤ 「見方・考え方」を働かせられる工夫

▶「深い学び」のカギとなる「見方・考え方」は、本文ページや章・節末の「学習を振り返ろう」など、さまざまな箇所でも働かせることができます。

本資料p.49-50

地理

教科書
巻頭8、p.78など

歴史

教科書
巻頭8、p.159など

公民

教科書
巻頭8、p.18-19

⑥ 防災意識を育む工夫

▶地理では災害の要因となる現象、歴史では災害の経験、公民では災害に対する行動を扱い、防災意識を育めます。

本資料p.43

地理

「日本の地域的特色」
教科書p.146-151など

歴史

「未来に向けて
自然を生かした信玄堤」
教科書p.97など

公民

「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」
教科書p.16など

⑦ 我が国の領土への理解を深める工夫

▶地理では日本の領域の範囲、歴史では領土画定の経緯、公民では国としての対応を扱い、日本の領土について正しく理解できます。

本資料p.64、67

地理

「日本の領域とその特徴」
教科書p.18-19など

歴史

「日本の領土画定と近隣諸国」
教科書p.286-287など

公民

「領土をめぐる取り組み」
教科書p.186-187など

⑧ 地図の活用を促す工夫

▶「地図帳活用」を設置し、活用場面がよりわかりやすくなっています。また、豊富な地図の読み取りを通して、空間認識能力を高めます。

本資料p.51

地理

教科書
巻頭10、p.226
など

歴史

教科書
p.69など

公民

教科書
p.186-187など

⑨ 小学校・他分野との関連を図る工夫

▶小学校や他分野の学習事項を生かせるよう、問いの文章を工夫したり、アイコンや側注で既習事項を提示したりしています。

本資料p.24、67

地理

小 歴 公

小学校・歴史・公民・他教科との関連

歴史

小 地 公

小学校・地理・公民・他教科との関連

公民

小 地 歴

小学校・地理・歴史・他教科との関連

⑩ SDGsへの意識を育む工夫

本資料p.41-42、55-56

▶「未来に向けて」では、地理では地域の事例、歴史では過去の経験、公民では自らが考える課題を取り上げ、SDGsについての理解が深まるようにしています。

地理

↓「未来に向けて
よりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



歴史

↓「未来に向けて
よりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



公民

↓「未来に向けて
よりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



社会科3分野共通の特色

②学習がより深まる他分野および地図帳との連携 ~「未来に向けて」を活用して~

「未来に向けて」は、未来の社会をつくる取り組みを紹介するコラム・特設です。地理・歴史・公民共通で設置しており、分野をまたいで学習を深めたり、多面的・多角的な見方を養えたりします。このページでは「環境保全」をテーマに、中学校社会科でどのように学びを展開していけるか一例を示しています。

1・2年生


3年生

未来に向けて 脱炭素社会に向かうヨーロッパ 環境・エネルギー

ヨーロッパでは、脱炭素社会(→p157)に向けた取り組みが数多くみられます。再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境への負荷が小さい鉄道の利用促進、電気自動車の普及に向けた充電スタンドの設置などがみられます。

2018年ごろからは、ヨーロッパの各地で、多くの人が参加し、政府に対して気候変動への対策を訴えかける運動も活発になっています。脱炭素社会の実現のためには、それを支える技術革新やしくみづくりとともに、個人がもつ意識の変化も重要となってきます。


→4 フランスのパリに向かう国際夜行列車に乗り込む人々(オーストリア、ウィーン、2021年) 航空機や自動車に代わる長距離の移動手段として、夜行列車の利用が見直されています。



↑地理的分野 p.75

未来に向けて 江戸のごみを利用した農業 環境・エネルギー

江戸時代半ば、砂村(現在の東京都江東区)では、野菜の促成栽培が行われました。江戸の町から出たごみを堆積し、発酵の際に出る熱を利用して早めに種をまくことで、早めの収穫を行いました。砂村の野菜は、初物好きの江戸の人々の間で大人気となり、高値で取引引きされ、ブランド野菜として将軍への献上品にもなりました。また、砂村のねぎやきゅうり、にんじんなどの野菜の品種は各地で栽培されるようになりました。



↑歴史的分野 p.155

地理的分野

現状を学ぶ・地域の事例を学ぶ

地理的分野の学習では、環境保全のために世界・日本で行われている取り組みを紹介しています。「脱炭素社会に向かうヨーロッパ」では、環境負荷の小さい移動手段として、夜行列車の利用が見直されていることを紹介しています。

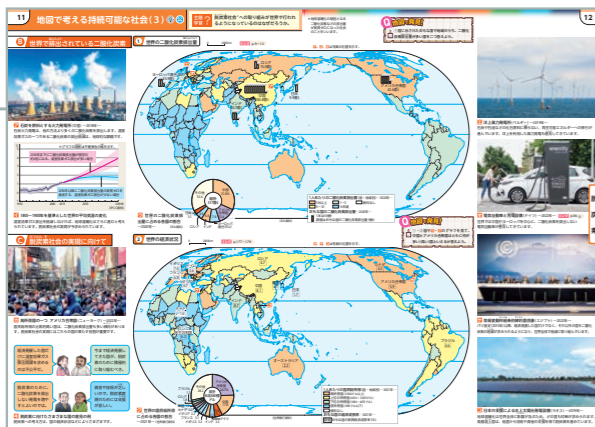
歴史的分野

過去の取り組みを学ぶ

歴史的分野の学習では、環境保全のために過去に行われていた取り組みを紹介しています。「江戸のごみを利用した農業」では、ごみを発酵させるときに発生する熱で野菜の促成栽培が行われていたことを紹介しています。

地図帳

地図帳は各分野で幅広く活用できる社会科共通の教科書です。地図帳p.11-12では脱炭素社会の実現に向けた取り組みに関するさまざまな資料を掲載しています。各分野の学習で活用することで、より学びを深めることができます。



↑地図帳 p.11-12

未来に向けて 環境保全への取り組み 環境・エネルギー

① **ごみの焼却炉から金・銀を回収(神奈川県相模原市)**
神奈川県相模原市は、2021年度の1年間に一般ごみとして捨てられた電子機器などから、金・銀それぞれ約15kgを回収することに成功しました。市内の焼却炉では、高温に熱されたごみを用いて、ごみを煮し焼きにしています。ごみの多くはガスとなって燃焼しますが、電子機器の基板などに含まれる貴金属は燃え残り、焼却炉の底にたまっていきます。相模原市は3年前から焼却炉メーカーと共同で、この焼却炉の底から金・銀を回収する技術を開発してきました。その結果、21年度に回収した金・銀は約1億3000万円分となり、回収費用の約1億円を差し引いて、約3700万円の収益を上げました。収益は清掃工場の補修費や環境啓発活動などに使われています。

② **日本最大級の電力消費企業の脱炭素への挑戦(三重県四日市市)**
三重県四日市市で創業したA社は、全国に約2万店舗を展開し、日本全体の電力の約1%を消費する日本最大級の電力消費企業です。A社は2018年に脱炭素に向けた計画を定め、店舗で排出する二酸化炭素などを50年までに総量ゼロにするという目標を掲げました。また、中期目標として30年までに店舗の使用電力の50%を再生可能エネルギー(→p.198)に切り替えるとしています。A社は二酸化炭素排出量の約9割が電力によるもので、省エネルギー設備を導入して使う電力を減らしたり、太陽光パネルを設置して再生可能エネルギーへ転換したりすることで、目標の達成を目指しています。また、電力会社と連携して個人の家庭で発電された電気を買い取り、買い物に使えるポイントで還元するしくみも導入しています。20年には使用電力のすべてを再生可能エネルギーで賄う店舗も誕生しました。

NEXT2030へのヒント 2030年のSDGs達成とその先を目指して

私たちの生活は多くのモノやエネルギーを消費して成り立っています。モノやエネルギーを安定に確保することは、豊かな社会を維持していくためには不可欠です。しかし、人々の経済活動の拡大によって、地球温暖化などの地球環境問題が広がってきており、大量消費を前提とした社会は持続可能とはいえなくなっています。これからは、地域社会や地球環境へ与える影響も考慮しながら、モノやエネルギーをどのようにつくり、使い、処分するかを考えていく必要があります。私たち消費者もひとりごとではなく、ふだんの生活や消費活動を見直していくことが大切です。

公民的分野

未来の社会をつくる行動を考える

公民的分野の学習では、環境保全のために行われている取り組みと、今後の展望を「NEXT2030へのヒント」で取り上げています。「環境保全への取り組み」では、自治体と企業の取り組みを紹介しつつ、消費者も普段の生活や消費活動を見直すことが大切だと結んでいます。環境保全を「自分ごと」として捉え、自分たちにできる取り組みを考えさせることができます。

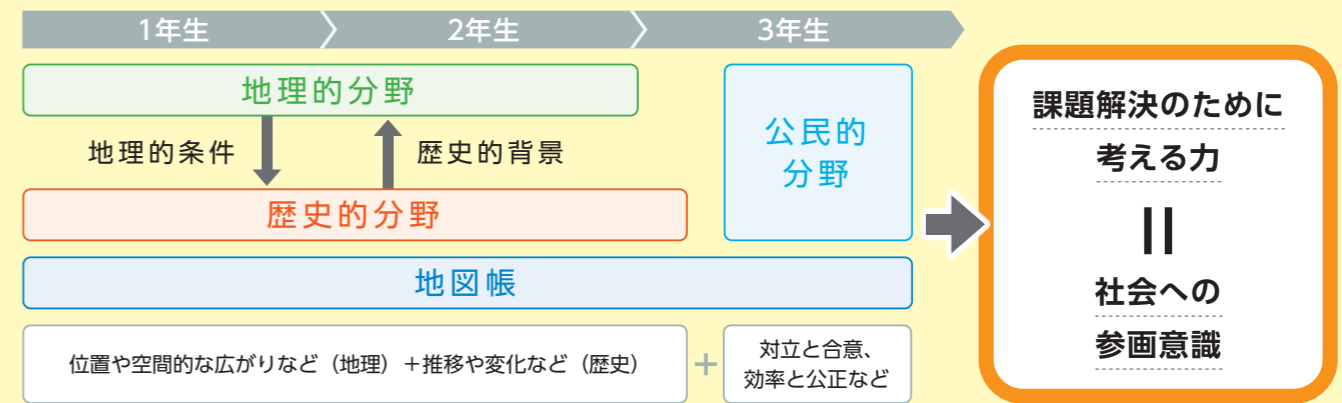
自分たちにできる取り組みについて、地理や歴史の学びをヒントに考えることができます。

←公民的分野 p.178

ポイント

分野間連携の必要性

下の図のように、中学校社会科は地理と歴史を関連付けながら学び、その蓄積を踏まえて公民の学習がある構造になっています。そのため、どの分野においても教科全体を見通したカリキュラム・マネジメントが必要です。



帝国書院の教科書では、単元構成・紙面構成を統一し、コラムや特設なども共通にすることで、カリキュラム・マネジメントをサポートしています。これにより、分野をまたいだ深い考察や多面的・多角的な見方を養うこともできます。

共通の特色

学習がより深まる他分野および地図帳との連携

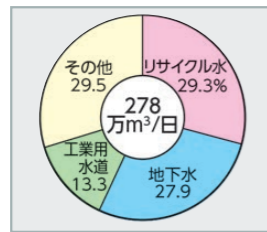
サポート

① インクルーシブ教育への対応

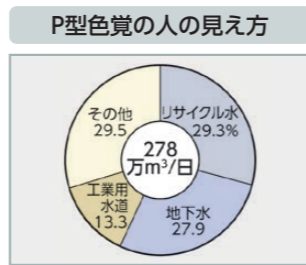
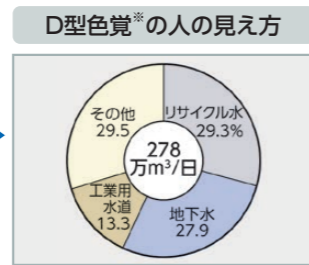
すべての生徒が使いやすいよう、ユニバーサルデザインに基づいた編修をしています。

① カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

色覚特性をもつ人が同じように見えやすい色づかいに配慮したり、境界線を黒ではっきりと書いています。



↑p.206③

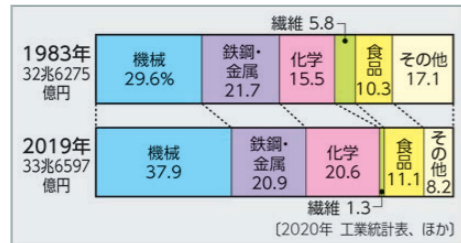


※色覚特性のD型とP型は、特性の中でも代表的なものです。左の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

② インクルーシブ教育に配慮した表現

帯グラフ

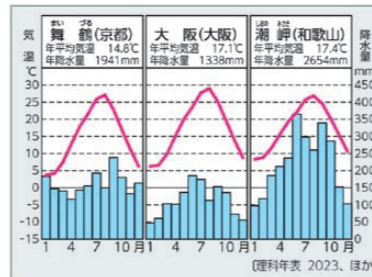
どこまでが同一の資料であるのか判別しやすいよう、図の周囲をグレーで囲んでいます。右の図の場合、2つの帯グラフが1つの資料を構成していることがわかります。また、引き出し線の起点を明確にするため、黒点で表現しています。



↑p.206②

折れ線グラフ

グラフが読み取りやすいよう、折れ線を太くし、背景を白色にしています。



↑p.203③

③ 誤読を防ぐ読みやすい文字

誤読を防ぎ、すべての生徒にとって読みやすくなるよう、見開きタイトル、本文、図版タイトルなどにはユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。

非UDフォント

行われています。

UDフォント

行われています。

- 文字の細い部分を太くして、見えやすくする。
- 紛らわしい画線をやめ、シンプルなデザインにする。
- 濁点部分のすきまを十分確保して視認性を高める。
特に濁点のあるふりがなが読みやすくなっています。

非UDフォント

1946年11月3日

UDフォント

1946年11月3日

- 文字と線が判別しやすい。
特に数字の「9」と「6」の区別や、数字の「3」とアルファベットの「S」などの判別がしやすくなっています。

④ 学習単元がわかる工夫

現在学習しているのがどの章なのか一目でわかるよう、章ごとに色をわけています。

3章

日本の諸地域
近畿地方

⑤ 学習が進めやすい工夫

- ▶レイアウトの違いによる生徒の混乱を防ぐため、導入資料や学習課題、振り返りの設問を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一しています。
- ▶見通し・振り返りがしやすいよう、「導入資料、学習課題(見通し)→本文→確認しよう、説明しよう(振り返り)」で見開きの展開を統一しています。

詳しくは本資料p.33-34

インクルーシブ教育のためのデジタル教科書の機能

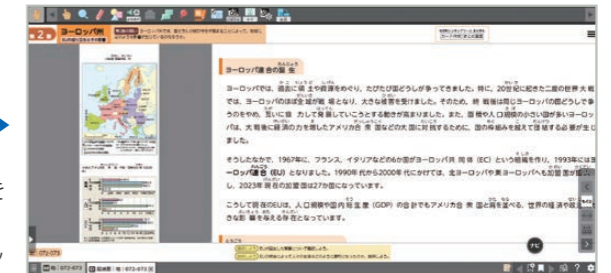
超紙面

NEW

学習用端末での閲覧に最適化されたWeb紙面です。2画面表示で左面が図版、右面が本文となっており、ユーザーが幅を自由に変更できます。また、右面の教科書本文の表示に合わせて、左面には本文に対応した図版が表示されます。本文や資料を大きく見やすく表示させ、関連性をつかみながら学習できます。



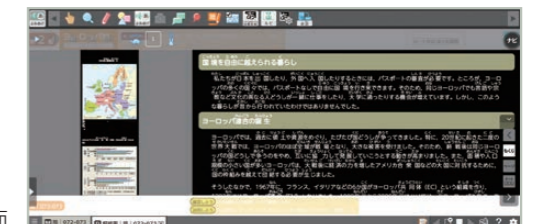
↑図版は左面、本文は右面に表示されます。



↑右面の本文の内容に連動して、左面の図版が表示されます。

「超紙面」機能のほかにも、総ルビや白黒反転、読み上げ機能を搭載しています。

その他のデジタル教科書の機能は本資料 p.61-62



→総ルビと白黒反転機能で表示した紙面

特別支援教育のための教科書と地図帳

『拡大教科書』(無償給与対象)

▶文字や資料を大きく目立たせ、レイアウトを見やすく改善しています。

■ ページ数の比較 (令和3年度版中学校用地理教科書の場合)

通常教科書	拡大教科書(7冊分)
全310ページ	全2,780ページ

■ 同サイズでの紙面の比較 (画像は令和3年度版)



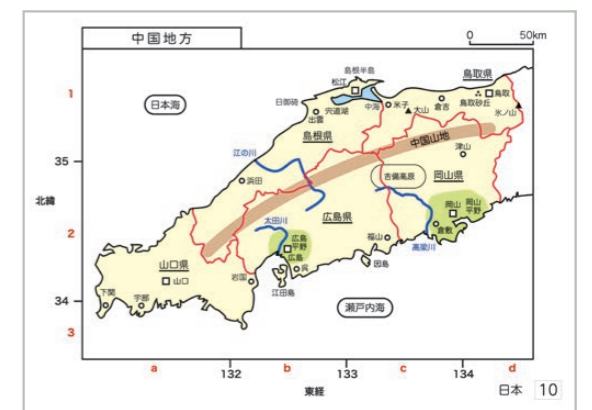
↑通常教科書

↑拡大教科書

『みんなの地図帳 ~見やすい・使いやすい~ 初訂版』(有償)

▶記載内容を大幅に精選し、見やすくなるよう工夫しています。

日本視覚障害社会科教育研究会編集、帝国書院発行



サポート

教師用指導書

サンプルはこちら



URL : <https://www.teikokushoin.co.jp/jhs/07shidouso/>

紙媒体で提供する教科書解説編と指導・評価編、およびコンテンツをダウンロードして使う指導書Webサポートの3点セットで、毎日の授業をサポートします。

※各コンテンツの名称は、変更になる可能性があります。

指導書(教科書解説編)

教科書紙面の縮刷版を中心に置き、まわりに教科書の解説や授業のポイント(板書例)、「確認しよう」「説明しよう」の解答例などを掲載しています。

1 近畿地方の自然環境

近畿地方の自然環境に関する解説と授業ポイントが掲載されています。

▶本文ページのイメージ
(画像は令和3年度版)

指導書(指導・評価編) 大改訂

年間指導計画案、単元構成案、授業展開案や評価規準例を掲載しています。
デジタル教科書・教材を活用した展開案も掲載しています。

指導書(指導・評価編)のコンテンツイメージが示されています。

↑単元構成案のイメージ

↑授業展開案のイメージ

指導書Webサポート

評価問題(テスト例)

定期考査作成の参考にできます。各問に「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価観点を付しているため、評価の参考にもなります。歴史・公民の評価問題(テスト例)も利用できます。

評価問題(テスト例)のイメージが示されています。

学習の見直し・振り返りシート

章・節ごとの見直しを立て、最後に振り返ることができるプリントです。単元の学習の前と後で、生徒の考えがどのように変容したか見取ることができ、評価につなげることができます。

学習の見直し・振り返りシートのイメージが示されています。

授業プリント

全単元に対応しています。授業だけでなく、生徒の自学自習にも活用できます。

授業プリントのイメージが示されています。

「学習を振り返ろう」ワークシート

「学習を振り返ろう」ページに準拠したワークシートです。知識・技能の確認や、「章・節の問い」に対する考えをまとめられます。

「学習を振り返ろう」ワークシートのイメージが示されています。

NEW 「アクティブ地理」ワークシート

「アクティブ地理」ページに準拠したワークシートです。課題に取り組みやすくなり、「主体的・対話的で深い学び」を実践できます。

「アクティブ地理」ワークシートのイメージが示されています。

「身近な地域の調査」ワークシート

第3部第1章「地域調査のしかた」のワークシートです。段階を追って作業ができ、準備から結果報告までの一連の流れを実践できます。

教科書掲載図版

教科書に掲載されている図版を、カラーとモノクロの2種類収録しています。授業プリントや定期考査の作成に活用できます。

※その他、年間指導計画案も収録しています。 ※一部画像は現行のものです。

サポート

③ デジタル教科書・教材

体験版はこちら
(2024年5月以降
お試しください。)



URL : https://ict.teikokushoin.co.jp/07jh_campaign/trial/index.html

一斉授業から「個別最適な学び」と「協働的な学び」まで、生徒の学びをトータルサポートします。

※各機能やコンテンツの名称は、変更になる可能性があります。

① 学習者用 デジタル教科書

- 紙の教科書と同一の内容を収録。
- 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- 特別支援機能を搭載。

② 学習者用 デジタル教科書+教材

- ①の機能はすべて収録。
- 教科書に準拠したコンテンツ集を収録。
- さらに、学習者用の新たな学習ツールや注目コンテンツも収録。

③ 指導者用 デジタル教科書(教材)

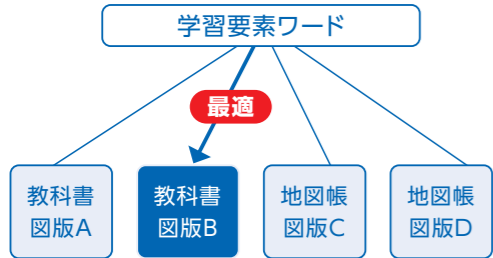
- デジタル教科書とデジタル教材の一体型。
- 特別支援機能を搭載。
- さらに、デジタル教科書+教材を活用した授業をサポートする授業支援ツールも収録。
- 教師用指導書(本資料p.59-60)と指導者用デジタル教科書(教材)のセット版も用意。

学習ツール NEW ~「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させる新機能~

学びコネクト

~学習要素ワードの検索機能~

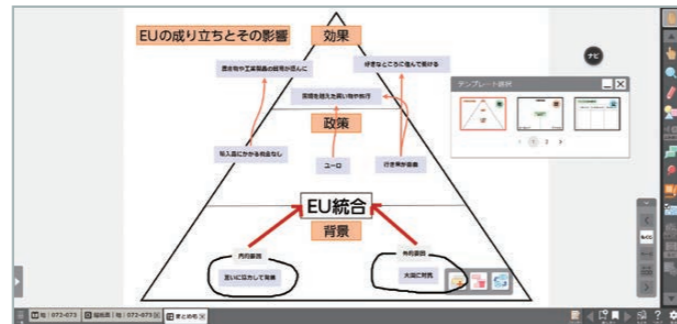
教科書の重要語句(=学習要素ワード)を検索すると、関連する紙面や図版を分野を超えて閲覧できる機能です。書目間連携が可能となり、複数の資料から生徒が主体的に学習に適した資料を選択することができます。



まとめも

~社会科思考ツール~

教科書本文から語句を抜き出して、オリジナルの思考ツールにまとめることができる機能です。自分の考えを整理・構造化し、他者との意見交換を踏まえて再調整することができます。



各分野の注目コンテンツ NEW ※これらのコンテンツは②と③に収録されます。

<h3>地図帳</h3> <h4>主題図コンテンツ</h4> <p>各州や各地方の主題図を「分ける」「比べる」「重ねる」の3つの手法で、さまざまな視点から読み解くことができます。</p>	<h3>地理</h3> <h4>写真で発見！世界の気候</h4> <p>世界の気候の特徴を写真や雨温図から読み解くことで、気候の概念とその分布について楽しく学べます。</p>	<h3>歴史</h3> <h4>タイムトラベル名探偵！</h4> <p>教科書に収録されている「タイムトラベル」を3D復元。各時代の特徴を没入感をもって楽しく学べます。</p>	<h3>公民</h3> <h4>ぱんSim ~パン屋さん経営大作戦~</h4> <p>『社会科 中学生の公民』に収録されている「パン屋さんをつくらう」をシミュレーションゲーム化。企業や経営について楽しく学べます。</p>
---	---	--	--

授業支援ツール

~学習者用デジタル教科書+教材との連携で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をサポート~

① デジタル教科書 章・節まとめ案 NEW

思考ツールを活用したデジタル教科書オリジナルのまとめ案や評価規準案などを用意しています。

② デジタル版 学習の見通し・振り返りシート NEW

教科書に記載されている学習課題・確認しよう・説明しようの内容をGoogle Workspaceの機能で生徒が回答し、先生が集約できます。

③ 授業スライド

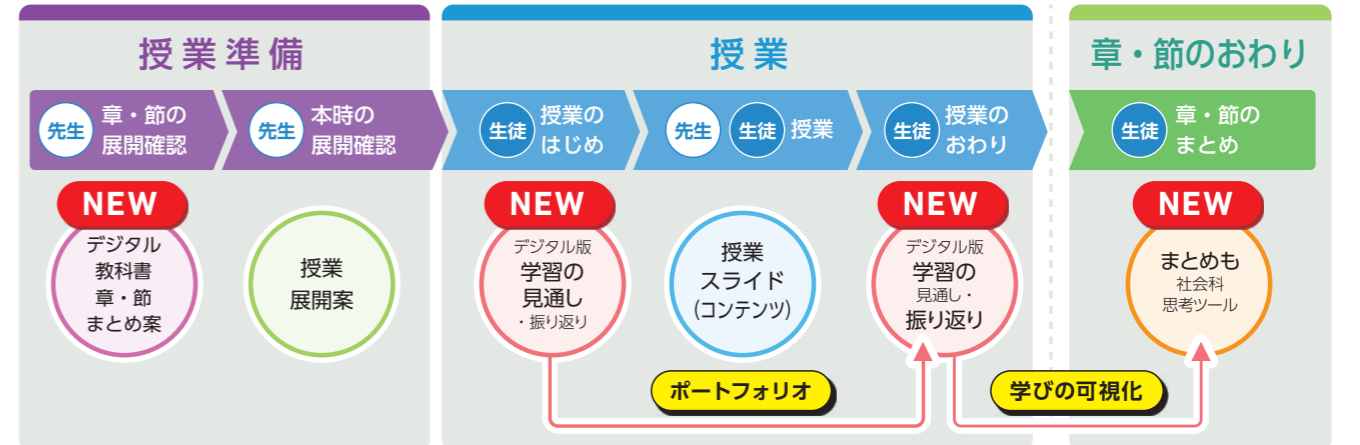
1時間の授業展開を10枚程度のスライドにまとめているので、デジタル教科書を活用した授業をすぐに始められます。

教師用指導書と共通

詳しくは本資料p.59

④ 単元構成案 ⑤ 授業展開案

〈学習者用デジタル教科書+教材と授業支援ツールを活用した授業展開イメージ〉



おもな学習者用・指導者用共通コンテンツ

レイヤー切り替え

教科書図版の表示要素を任意で選んで表示できます。

動画コンテンツ

NHKエンタープライズと共同制作したデジタル教科書オリジナル動画を数多く収録しています。

統計コンテンツ

日本と世界の項目別の統計を見ることができます。毎年最新のデータに更新します。

雨温図コンテンツ

世界92都市、日本82都市の雨温図を見ることができます。比較や重ね合わせもできます。

特色一覧

①教育基本法との対応

下表のExcelデータは
こちら



教育基本法第二条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
全体	<p>問いを軸にした単元構成の構造化によって、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ●章・節・各本文ページ冒頭には、学習内容を問い(「章・節の問い」「学習課題」)で示し、生徒自らが学習の見通しをもてるようにしている。章・節・各本文ページの末尾には課題(「学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」)を設けている。問いには、協働的に学習する場面を設け、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。 ●学習活動では、3つの資質・能力を特に育成する場面を設けることで、学習を見取ることができ、3つの観点に基づいた「指導と評価の一体化」が実現できるようにしている。 	おもに 特色3 p.29-40
第一号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求め、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<p>理解しやすい本文と興味・関心を高める写真や資料により、意欲的に学ぶに向かう態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」の各節の冒頭には、大判の写真から地域の様子をつかむ「写真で眺める」(全13か所)を設けている。(p.46-47、64-65、80-81、92-93、106-107、118-119、168-169、184-185、200-201、218-219、234-235、250-251、266-267) また、第3部第3章「日本の諸地域」の各節の冒頭には、イラスト地図から地域を概観する「とびら」(全7か所)を設け、生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶに向かえるようにしている。(p.167、183、199、217、233、249、265) ●地域の姿や人々の営みを映し出す写真を厳選して掲載し、学びに向かう意欲を高められるようにしている。また、現地取材を行い、学習効果が高まる写真を追究している。(全編) ●背景や因果関係まで丁寧に書かれた本文と、本文に関連する豊富な資料により、生徒の知的好奇心を高められるようにしている。(全編) ●巻頭5「教科書を活用した学び方」や巻頭7「地理的分野の学習の全体像」を設け、教科書の基本的な流れや、各特設ページやコラムの学習上の位置づけを示し、生徒による自主的・自発的な学習活動を促している。(巻頭5、巻頭7) 	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28
第二号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<p>「地理的な見方・考え方」を働かせて思考力・判断力を養う活動を通じて、自主・自律の精神をもって創造に取り組む資質を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●章・節の末尾の「学習を振り返ろう」では、「地理的な見方・考え方」を働かせることで、「章・節の問い」の解決に向けて多面的・多角的に考察できるようにしている。(p.13、25、42、62-63、78-79、88-89、104-105、116-117、126-127、165、180-181、196-197、212-213、230-231、246-247、262-263、278-279) また、地域の主題や中核考察に沿った写真や資料を選定し、協働的な学習を通して地域の姿をまとめる活動を取り入れるなど、自主・自律の精神を養えるようにしている。(全編) ●各種写真・資料には、「資料活用」や「対話」を促すアイコンを適宜設けて、資料を読み解く着眼点をもとに考察したり、資料から生まれる問いにより対話したりできるようにしている。(「資料活用」アイコン：p.31、49、206など全53か所/「対話」アイコン：p.70、75、209など全51か所) また、「地図帳活用」を設けることで、地図帳の関連する内容から教科書での学習を深められるようにしている。(p.26、75、203など全56か所) 	おもに 特色3 p.29-40 特色5 p.45-48 および p.49-52 p.57-58

教育基本法第二条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
第二号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●巻頭9「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」では、学習で有用な思考ツールを紹介している。(巻頭9) 特設ページ「アクティブ地理」の課題解決的な学習や「学習を振り返ろう」のまとめる活動などでは、「思考ツール」を活用することで、考えを整理したり、学習内容をまとめたりできるようにしている。(「思考ツール」アイコン：p.63、79、89、90、127、181、231、279) ●学習に必要な技能を習得する「技能をみがく」を設けている。(p.12、44、133など全21か所) ●インクルーシブ教育に配慮し、誰でも読みやすい書体(ユニバーサルデザインフォント)や色調を導入することで、さまざまな特性をもつ生徒の価値を尊重して、その能力を伸ばせるようにしている。(全編) ●QRコンテンツを随所に設置することで、授業以外においても生徒が自主的に活用できるよう、配慮している。(巻頭6など全85か所) 	おもに 特色3 p.29-40 特色5 p.45-48 および p.49-52 p.57-58
第三号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<p>現代社会が直面する課題の解決に向けて構想する活動場面を設け、社会参画に向けた態度と資質を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地球的・地域的課題の解決に向けて構想する「アクティブ地理」を4か所設け、各種資料をもとにした生徒どうしの対話を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。現代社会が抱える課題に主体的に取り組むことで、日頃から社会の形成に参画する態度を育成できるようにしている。(p.90-91、150-151、214-215、281-282) ●第4部第1章「地域のあり方」では、地域に見られる課題の分析と、その解決に向けた構想の手順を丁寧に説明し、生徒が自ら設定した対象地域で地域の課題解決に向けた提案ができるようにしている。(p.283-293) 	おもに 特色3 p.29-40 特色4 p.41-44
第四号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<p>人権や環境・エネルギー、防災などの現代社会の課題解決に向けた取り組みを豊富に掲載し、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「未来に向けて」のコラムを31か所、特設ページを9か所設けている。脱炭素社会の実現への取り組みや自然災害への対策など、“持続可能な開発目標(SDGs)”に関わる題材を豊富に掲載することで、持続可能な社会の形成に向けて主体的に取り組む態度を育成できるようにしている。(p.75、156、171など全40か所) ●第4部第1章「地域のあり方」では、これまでの学習で得た知識・技能をもとに「地理的な見方・考え方」を働かせて、持続可能な社会のあり方を構想できるようにしている。(p.283-293) 	おもに 特色4 p.41-44
第五号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<p>地誌的な内容を充実させ、正しい異文化理解・国土理解を通じて国際社会の平和と発展に向けた態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」の内容を充実させている。自然環境、生活・文化、産業をバランスよく扱うことで、適切な異文化理解と正しい国土理解を促せるようにしている。(「世界の諸地域」：p.45-127/「日本の諸地域」：p.166-282) ●第1部第2章「3日本の領域とその特徴」では、日本の立場が国際法に則していることを丁寧に解説したり、北方領土周辺の国境の移り変わりを地図で示したりすることで、正しい国土理解を促せるようにしている。(p.18-21) ●「未来に向けて」では、アイヌ民族の文化や、平和記念都市である広島市などの題材も掲載し、伝統・文化の尊重を促し、国際社会の平和と安全を重んじる態度を育成できるようにしている。(p.280、189) 	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.41-44

特色一覧

②検討の観点から見た内容の特色

下表のExcelデータは
こちら



観点	観点の内容	『社会科 中学生の地理』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
教育基本法 への対応	教育基本法との対応が十分には かられているか。	●教育基本法第一条の目標および教育基本法第二条第一～五号に示された内容について、 社会科の目標や学習内容に沿った指導を効果的に行うことができる ように構成されている。	おもに p.63-64
学習指導要領との 対応	学習指導要領の 目標・内容の趣 旨に沿ったもの であるか。	●単元構成は、学習指導要領の目標・内容に沿って構成されている。「もくじ」および「教科書を活用した学び方」では、 単元構成と学習内容、各種コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しがつきやすい ように工夫されている。また、「地理的分野の学習の全体像」では、小学校や他分野との関連を含めて、学習全体を見わたせるようになっている。(巻頭3-7) ●地域の特色が概観できるイラスト地図や写真資料、章・節ごとの単元を貫く問い、具体的な事例をもとに因果関係がわかる本文、単元の最後の「学習を振り返ろう」のように、 単元が構造化され、見通し・振り返りに基づいた単元学習が確実に実践できるように工夫されている 。 ●臨場感あふれる写真を通して日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、 主体的に各地の地域的特色を捉えられる本文やコラムがバランスよく盛り込まれている 。 ●「地理的な見方・考え方」を働かせながら、日本の国土や世界の諸地域に関する地理的特色が捉えられるよう構成されている。また地理的分野の全体を通して鍛えていく「 地理的な見方・考え方 」を整理したページが設けられ、わかりやすく説明されている。(巻頭8) ●知識が確実に習得できるよう丁寧な本文とし、本文の理解を促す資料を適宜配置している。知識・技能の形成を促すコラムや思考力・判断力・表現力を育む作業が随所に盛り込まれ、 公民としての資質・能力の基礎を育成できるように配慮 されている。	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色3 p.29-40 および p.49-52
内容の配列・分量・ 程度	全体の分量は、 年間標準時数から 見て適切か。各 単元の配当時数 は適切か、系 統性が考慮され ているか。	●1見開き1単位時間(以下、時間)の授業が想定され、学習課題が明確に設定されている。 ●授業数は、第1部に8時間(第1章4時間、第2章4時間)、第2部に41時間(第1章7時間、第2章34時間)、第3部に56時間(第1章4時間、第2章10時間、第3章42時間)、第4部に5時間(第1章5時間)が配当され、標準授業時間数115時間のうち110時間を活用する配当に収めている。予備時間は5時間設けられている。	おもに 特色3 p.29-40
	内容の程度・範 囲および文章 は、生徒の発達 段階から見て適 切か。	●本文は、 具体的に例示したり、地理的事象の背景や因果関係までわかる ようにしたりするなど、丁寧でわかりやすくなっている。また、平易な表現にするなど、中学生の 発達段階が考慮 されている。 ●本文、図版タイトル、キャプションの難しい漢字にはふりがなが付されている。また、固有名詞や地理用語には適宜ふりがなが付されており、地名や用語、熟語が正しく読めるように配慮されている。 ●文体は「です、ます」調の語り口で、 生徒に親しみやすい よう配慮されている。 ●中学校学習指導要領の学習範囲を逸脱せず、 基本的な用語や概念の理解を優先的に学べる ようになっている。	おもに 特色2 p.13-28
	学習を効果的か つ効率的に進め るための工夫が なされているか。	●各見開きは、本文、資料、側注などが 統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理 されている。学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。 ●本文と資料の関連する箇所には、 図・写真や他ページへの適切な参照指示 が記載され、学習効果を高めるとともに、効率よく資料の活用ができるように工夫されている。 ●各見開きでは、 学習している単元がわかるように、章ごとに色が統一 されている。さらに、紙面右端に インデックス が設けられ、 全体における位置づけを確認しながら学習 できるように工夫されている。 ●用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、ページ間を移動する手間が省け、生徒が集中力を切らさないうちで授業を進められるように工夫されている。	おもに 特色3 p.29-40
内容の扱い／ 学習活動	課題解決的な学 習を行うための 構成・工夫がな されているか。	●単元を貫く「章・節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「学習を振り返ろう」というように 問いが構造化 され、単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで、 課題解決的な学習ができる構成 になっている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」の導入「写真で眺める」では、「節の問い」や学習内容に関連した写真や地図の読み取りを通して、 学習の見通しが立てられる ように工夫されている。(p.46-47、64-65、80-81、92-93、106-107、118-119、168-169、184-185、200-201、218-219、234-235、250-251、266-267) ●「学習を振り返ろう」では、「章・節の問い」に対して「 地理的な見方・考え方 」を働かせて考えるステップなど、 課題解決的な学習ができる工夫 がなされている。(p.13、25、42、62-63、78-79、88-89、104-105、116-117、126-127、165、180-181、196-197、212-213、230-231、246-247、262-263、278-279) ●「アクティブ地理」では、 地域に見られる課題を考察し、解決への取り組みを考えるパフォーマンス課題が設定 されている。(p.90-91、150-151、214-215、281-282)	おもに 特色3 p.29-40 および p.49-52

観点	観点の内容	『社会科 中学生の地理』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
内容の扱い／ 学習活動	「主体的・対話 的で深い学び」を 実現するための構 成・工夫がなさ れているか。	●単元を貫く「章・節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 単元のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できる構成 になっている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」の単元冒頭に、学習の進め方や各地域で注目するテーマ・視点が「 序節 」としてわかりやすく示されており、 学習の見通しが立てやすい ように工夫されている。(p.45、166) ●本文ページ左上の導入資料では、写真や資料に対して中学生に親しみやすいキャラクターが吹き出しで疑問を投げかけており、 導入資料を用いて対話的な学習ができる ように工夫されている。 ●本文ページは左ページ上段に導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを配置し、下部に本文を配置する 学習しやすいレイアウトで統一 されている。また、 相互にリンクが張られ、資料が活用しやすい ように工夫されている。 ●「学習を振り返ろう」では、学習した知識をもとに、「 地理的な見方・考え方 」を働かせながら 主体的・対話的に「章・節の問い」を振り返る ことで、「 深い学び 」につなげられるように配慮されている。(p.13、25、42、62-63、78-79、88-89、104-105、116-117、126-127、165、180-181、196-197、212-213、230-231、246-247、262-263、278-279) ●「アクティブ地理」では、正解が1つでない 課題解決型学習 を通して、意見交換や発表をする 対話的な学習を多く設定 している。対話を通して課題に粘り強く向き合い、 さまざまな立場を踏まえて合意形成を目指す態度を身に付けられる ように工夫されている。(p.90-91、150-151、214-215、281-282) ●第3部第1章「地域調査のしかた」では、調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが 具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められる ように配慮されている。(p.128-139) ●周囲との対話を促す「対話」アイコンを設けている。対話を通して、 自身の考えをより深めるとともに、他者の意見を尊重する態度を身に付けられる ように工夫されている。(p.70、75、209など全51か所)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-40 および p.49-52
	基礎的・基本的 な「知識および技 能」を確実に習得 するための工夫 がなされている か。	●見開き1時間の紙面が、 興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧にわかりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」 の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識および技能が確実に理解できるように工夫されている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」では、各地の地域的特色を確実に理解できるように、各節の構成が「 写真で眺める 」→「 自然環境 」→「 歴史・文化 」→「 産業など 」→「 学習を振り返ろう 」という展開に構造化されている。(p.64-79「ヨーロッパ州」、p.199-213「近畿地方」など) ●本文は、全編にわたり地理的事象のしくみや概念がわかるように 因果関係を踏まえた上で、具体例を挙げながらわかりやすく記述 されている。また、文章で書かれた内容を補足し理解を促進する、 わかりやすい図解が多数掲載 されている。 ●第3部第1章「地域調査のしかた」では、調査テーマの決め方、視点の例、調査手順、必要な技能が系統だて具体的に示されており、 技能を習得しやすい ように配慮されている。(p.128-139) ●「技能をみがく」コーナーが設けられ、「 地理的な見方・考え方 」を働かせる上で 必要な基礎的な技能が習得 できるように配慮されている。(p.17、44、133など全21か所) ●本文側注およびQRコンテンツの中に 用語解説 が用意されている。	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-40 および p.49-52
	深い学びを実現 させるための「思 考力・判断力・ 表現力等」を育 成するための配 慮がなされてい るか。	●本文ページの見開きの右下には、「確認しよう」および「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には本時の学習での習得事項を確認する作業課題が、「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。これにより 言語活動を毎時間くり返し行い、思考力・判断力・表現力を育成 できるように配慮されている。 ●各章・節末の「学習を振り返ろう」では、 章・節の学習で得た知識を生かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題 が設けられている。また、 思考ツールを用いて自分の考えを整理・構造化 できるように配慮されている。	おもに 特色3 p.29-40
	「思考力・判断 力・表現力等」の 育成につながる 社会的な見方や 考え方を働かせ るための配慮が なされているか。	● 写真や図版、本文が密接に関連している ため、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「 地理的な見方・考え方 」を自然と働かせられるように配慮されている。 ●「学習を振り返ろう」では、 地図や写真、思考ツールなどのさまざまなツールを用いて、「地理的な見方・考え方」を働かせられる ように工夫されている。(p.13、25、42、62-63、78-79、88-89、104-105、116-117、126-127、165、180-181、196-197、212-213、230-231、246-247、262-263、278-279) ●「見方・考え方」アイコンを設け、「 地理的な見方・考え方 」を働かせて考察するための視点が示されている。(p.78、90、212など全21か所)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-40 および p.49-52
	生徒の興味・関 心を喚起させ、 「主体的に学習に 取り組む態度」を 育成できるよう な配慮がなされ ているか。	●幅広の判型(AB判)で、 写真や地図、グラフなどが大きく見やすく提示 され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」では、各節の冒頭に「 写真で眺める 」が設けられ、 地域への興味・関心を高めてから学習に入れる ようになっている。(p.46-47、64-65、80-81、92-93、106-107、118-119) ●第3部第3章「日本の諸地域」では、各節の冒頭にイラスト地図および「 写真で眺める 」が設けられ、 地域への興味・関心を高めてから学習に入れる ようになっている。(p.167-169、183-185、199-201、217-219、233-235、249-251、265-267) ●生徒にとって親しみやすい中学生のキャラクターが各ページに配置され、 発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示 することで、主体的に学習へ取り組めるように配慮されている。 ●各見開きの左上に、1時間ごとの導入となる資料が設けられている。ワイドな写真からイメージを喚起したり、驚きや疑問をもったりして 学習への意欲が引き出せる ようになっている。 ●第3部第1章「地域調査のしかた」では、調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが 具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められる ように配慮されている。(p.128-139)	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色3 p.29-40

観点	観点の内容	『社会科 中学生の地理』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	小学校・高等学校との接続や関連に配慮がなされているか。	●本文ページ脚注欄には「小学校・歴史・公民・他教科との関連」コーナーが設けられ、 小学校で学習した内容を確認できる よう、関連用語が提示されている。(p.30、102、208など) また、資料には「小・歴・公」アイコンが付され、小学校の学習との関連を確認できる。(p.21、142など) ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」では、 自然環境、歴史・文化、産業などの地域的特色をきちんとおさえられる ように配慮されている。 ●第1部第1章「世界の姿」や第1部第2章「日本の姿」、および「技能をみがく」に設けられた作業「やってみよう」では、 小学校で学習する都道府県や地図帳の活用に関する内容を、より深化させる学習ができる ように工夫されている。(p.12、22、133など全18か所)	おもに 特色2 p.13-28 および p.53-54
	他分野との接続や関連への配慮がなされているか。	●本文ページ脚注欄には「小学校・歴史・公民・他教科との関連」コーナーが設けられ、 歴史的分野・公民的分野との接続ができる よう、関連用語が提示されている (p.30、102、208など) また、資料には「小・歴・公」アイコンが付され、歴史的分野・公民的分野の学習との関連を確認できる。(p.97、123など) ●地図帳の活用が効果的な場面には「地図帳活用」アイコンを付し、 地図帳の活用を促している 。(p.26、72、210など全56か所) ●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」では、各地域の文化や産業についての 歴史的経緯が積極的に記載され、歴史的分野との接続が考慮 されている。 ●「環境・エネルギー」「人権・多文化」「情報・技術」「防災」「平和・安全」「伝統・文化」といった、未来の社会をつくる取り組みを紹介する特設ページおよびコラムの「 未来に向けて 」が設けられ、 歴史的分野および公民的分野への接続が考慮 されている。(p.75、156、171など全40か所) ●「アクティブ地理」では、歴史的分野や公民的分野とも関連するテーマを設定し、 他分野の学習と関連する視点が提示 されている。(p.90-91、150-151、214-215、281-282)	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.41-44 および p.51-56
	我が国の伝統・文化、宗教に対する理解が深められる配慮がなされているか。	●第3部第3章第6節「東北地方」では、地域を見る視点を「生活・文化」とし、 伝統文化を生かした産業や伝統文化の継承について考察 できるように配慮されている。(p.249-263) ●第3部第3章第1節「九州地方」では、 琉球王国の歴史や伝統文化 、第7節「北海道地方」では、節末の「未来に向けて」において アイヌ民族の生活や文化 について触れ、 多文化が尊重される社会を意識 させるように配慮されている。(p.178-179、280)	おもに 特色2 p.13-28
	我が国の領域を正しく理解できる配慮がなされているか。	●第1部第2章「3日本の領域とその特徴」では、日本の領域について図や写真を用いて丁寧に説明し、正しい理解を深められるように配慮されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島が 日本固有の領土であることが明記 され、領土に関する現状と課題を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるように配慮されている。(p.18-21)	おもに p.53-56
	補足的な学習や発展的な学習に対しての工夫・配慮がなされているか。	●第3部第1章「地域調査のしかた」および第4部第1章「地域のあり方」では、 協働学習形態の提示 が行われている。(「 地域調査のしかた 」: p.128-139/「 地域のありかた 」: p.283-293) ●「未来に向けて」が設けられ、持続可能な社会をつくるための人々の取り組みを示すことで、社会に対し 生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考える ことができるように工夫されている。(p.75、156、171など全40か所) ●「アクティブ地理」では、習得した「知識・技能」を活用してパフォーマンス課題に取り組むことができる。(p.90-91、150-151、214-215、281-282)	おもに 特色3 p.37-40 特色4 p.41-44
	生徒が家庭でも主体的に自学自習できる配慮がなされているか。	●教科書の冒頭には「教科書を活用した学び方」を設け、 自学自習がしやすい ように配慮されている。(巻頭5-6) ●緯度・経度や時差など、図版だけでは理解しづらい概念を説明する際は、 QRコンテンツにアニメーションを収録して、理解を促す ように配慮されている。 ●QRコンテンツでは、学習内容に関連する動画や「学習を振り返ろう」の解答などが閲覧でき、生徒が 自学自習しやすい ように工夫されている。(巻頭6など全85か所)	おもに 特色5 p.45-48
今日的な課題への対応	環境教育に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」では、学習が「自然環境」から始まっており、 各地域の自然環境に対する理解が深められる ように配慮されている。(「 ヨーロッパ州 」 p.66-67、「 近畿地方 」 p.202-203など) ●「未来に向けて 環境・エネルギー」が12か所設置され、環境保全に取り組んでいる人々の姿が紹介されている。(p.73、75、121、125、156-157、173、177、182、209、223、275、277)	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.41-44
	防災に関して、どのような配慮がなされているか。	●第3部第2章「日本の地域的特色」の中で日本の自然災害について扱っている。日本で起こりうる自然災害と各地で行われている防災への取り組みについて学び、同時に 自分自身が災害にどのように備えるか、災害発生時にどのように行動すべきか、主体的に考えられる ように配慮されている。(p.146-151) ●「アクティブ地理 自然災害から命を守ろう」では、 ハザードマップの使い方や災害時の避難方法などを実践的に学習 でき、防災への意識が高められるように配慮されている。(p.150-151) ●第3部第3章「日本の諸地域」の自然環境を扱う見開きでは、各地方の自然環境に関連した災害とそれに対する対策の実例を示したコラム「未来に向けて」が設置されており、 地方における自然環境の特色と防災の関連がつかめる ように配慮されている。(p.171、187、203、221、237、253、269) ●第3部第3章第6節「東北地方」の節末「未来に向けて」では、東日本大震災の復興に向けた取り組みを事例として扱っている。 防災の重要性を強調するとともに、地域ぐるみで取り組むことの大切さを知る ことができるように配慮されている。(p.264)	おもに 特色4 p.41-44
	人権・平和教育の推進のために、どのような配慮がなされているか。	●第2部第2章「世界の諸地域」および第3部第3章「日本の諸地域」では、各地にはさまざまな立場や考え方があることを認識し、 多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度を育める ように配慮されている。 ●「未来に向けて 人権・多文化」が7か所 (p.61、85、97、111、205、243、280)、「未来に向けて 平和・安全」が2か所 (p.55、189) 設置され、 多様な価値観や文化の共生を図る人々の姿 が紹介されている。	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.41-44

観点	観点の内容	『社会科 中学生の地理』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
今日的な課題への対応	グローバル化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第1章「人々の生活と環境」の中で、 世界とのつながりの中で変化していく衣食住などの事例を写真や本文で提示し、グローバル化が地域に及ぼす影響 について記述されている。(p.31、33、35、37、39、40-41) ●第3部第3章「日本の諸地域」では、 グローバル化の影響が地方産業に及ぼす影響 が記述されている。(p.175-177、192-193、206-207、222、224-225、229、239、242-243、259、270、274-276)	おもに 特色2 p.13-28 および p.49-52
	少子高齢化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第3部第2章「6日本の人口」では、 日本における少子高齢化の現状 について記述されている。(p.152-153) ●第3部第3章「日本の諸地域」では、 少子高齢化が地域に及ぼす影響 について記述されている。(p.195、210、241、245、260)	おもに 特色2 p.13-28
	情報化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第3部第2章「8日本の産業」では、 情報化が商業に与える影響 が記述され (p.158-161)、第3部第3章第5節「4工業地域の変化と第3次産業の発達」では、 情報が集まる地域の産業 について記述されている。(p.242-243) ●「未来に向けて 情報・技術」が5か所設置され、 情報化や技術革新によって人々の暮らしがどのように変容したか 記述されている。(p.161、198、232、248、290)	おもに 特色4 p.41-44
	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関して、どのような配慮がなされているか。	●教科書の冒頭で世界と日本における「持続可能な開発目標」(SDGs)の事例が写真で紹介され、 SDGsと地理的事象の関連について意識 できるように工夫されている。(巻頭1-2) ●第3部第3章「日本の諸地域」の各節末「未来に向けて」にはSDGsマークが付され、 持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいる実社会の事例を掲載 し、SDGsへの関心が高まるように配慮されている。(p.182、198、216、232、248、264、280) ●「アクティブ地理 課題解決に向けた取り組みを考えよう」では、アフリカ州で見られる課題を考察し、 解決への取り組みをSDGsと関連させて考えられる ように配慮されている。(p.90-91)	おもに 特色3 p.29-40 特色4 p.41-44 および p.55-56
表記・表現	統計、挿絵、写真、図表などは鮮明、正確かつ適切であり、相互の関連がはかれるなど学習効果を高めるための工夫がなされているか。	●本文の記述を補足する写真や図版などが 大判で豊富に掲載 され、学習を深められるように工夫されている。 ● 学習内容に関連する事項の参照ページや、参照資料の図番号などのリンク が設けられ、資料の活用を促している。 ●資料の読み取りのポイントを示した「 資料活用 」が設けられ、資料の活用が促されている。(p.31、49、206など全53か所) ●地理的分野の学習に必要な用語を解説した「 解説 」が側注欄に設けられている。文章だけでは理解しづらい用語には、図解や写真が添えられて 視覚的に理解が深まる ように工夫されている。(p.207側注「 中小企業と大企業 」など全53か所)	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色3 p.29-40 および p.57-58
	特別支援教育やインクルーシブ教育に対して適切な配慮がなされているか。	●本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができる ユニバーサルデザインフォント(UDフォント) が使用され、 誤読を防ぐ ように配慮されている。 ●見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料には、 色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様 が使用され、 カラーユニバーサルデザイン の配慮がなされている。 ●色数の多いグラフや地図には、模様や線種、記号などが使用され、 色以外での区別ができる ように配慮されている。 ●図版が色で囲まれ、 どこまでが同一の図版か読み取りやすい ように配慮されている。 ●各見開きのデザインは、生徒が学習しやすいように本文、資料、側注などが 統一されたレイアウト で整理されている。 ●紙面右端のインデックスには、章・節の学習内容が記載されていることで、 一目で学習している単元がわかる ように配慮されている。 ● 反射を抑えた紙 が用いられ、読み取りやすいように配慮されている。	おもに 特色3 p.29-40 および p.57-58
	紙質や印刷の鮮明さなど、生徒の利便性への配慮がなされているか。	●写真の印刷は 鮮明 で見やすくなっている。 ●地図などの図版は、 記号や注記文字が明瞭 で読み取りやすいように配慮されている。 ●紙は、 反射を抑えつつ、鮮明に発色して裏写りせず、かつ文字も書き込める軽量なもの が使用されている。 ●生徒が家に持ち帰ることを想定し、 軽い紙 が用いられている。	おもに p.57-58
印刷・装丁等	造本は3年間の使用に耐えられる配慮がなされているか。	●表紙の材料は引っ張り、折りなどに強い用紙が使用され、さらに、表面の摩擦・汚れを防ぐためにポリプロピレンシートが貼られており、 長期間の使用に耐えられる ように工夫されている。 ●製本は、針金縫じよりも 強度があり、かつ重量の軽いPUR製本 が用いられている。これにより本が大きく開くため、 机の上に開いたまま置くことができる ように工夫されている。	
	用紙・インキ等は、環境への配慮がなされているか。	●古紙および環境に優しいフレッシュパルプが用いられている。インキには国産米の米ぬかから作られるライスインキが使用され、 環境保全への配慮がなされている 。 ● 針金を使わないPUR製本 により、 資源を節約すると同時に、リサイクルしやすい ように工夫されている。	
サポート体制	デジタル教科書・教材や教師用指導書などのサポート体制はどのようなになっているか。	● 学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教科書+教材、指導者用デジタル教科書(教材)、教師用指導書、拡大教科書 が令和7年4月までに発刊される予定である。	おもに p.59-62



『社会科 中学生の地理』の全体構成(もくじ)

令和7(2025)年度発刊
地理046-72
AB版 312ページ

部・章・節	おもな内容	教科書ページ	本資料での掲載ページ
巻頭	未来に向けて よりよい社会を目指して	巻頭1-2	41
	もくじ	巻頭3-4	
	教科書を活用した学び方	巻頭5-6	
	地理的分野の学習の全体像	巻頭7	
	地理的な見方・考え方	巻頭8	49-50
	考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～	巻頭9	35-36
	地図帳を活用した学び方	巻頭10	
第1部	世界と日本の地域構成		
第1章	世界の姿	2-12	
	学習を振り返ろう	13	
第2章	日本の姿	14-24	
	学習を振り返ろう	25	
第2部	世界のさまざまな地域		
第1章	人々の生活と環境	26-41, 43-44	11-12, 52
	学習を振り返ろう	42	
第2章	世界の諸地域		
序説	学ぶにあたって	45	27
第1節	アジア州		
	写真で眺めるアジア州	46-47	29, 32
	(本文ページ)	48-61	30-31, 33-34
	学習を振り返ろう	62-63	31, 35-36
第2節	ヨーロッパ州		
	写真で眺めるヨーロッパ州	64-65	5-6, 13
	(本文ページ)	66-77	14-17, 55
	学習を振り返ろう	78-79	18
第3節	アフリカ州		
	写真で眺めるアフリカ州	80-81	
	(本文ページ)	82-87	
	学習を振り返ろう	88-89	
	アクティブ地理	90-91	39-40
第4節	北アメリカ州		
	写真で眺める北アメリカ州	92-93	
	(本文ページ)	94-103	
	学習を振り返ろう	104-105	
第5節	南アメリカ州		
	写真で眺める南アメリカ州	106-107	
	(本文ページ)	108-115	
	学習を振り返ろう	116-117	
第6節	オセアニア州		
	写真で眺めるオセアニア州	118-119	
	(本文ページ)	120-125	
	学習を振り返ろう	126-127	
第3部	日本のさまざまな地域		
第1章	地域調査のしかた	128-139	52
第2章	日本の地域的特色	140-149, 152-155, 158-164	43
	アクティブ地理	150-151	37-38, 43
	未来に向けて	156-157	
	学習を振り返ろう	165	

部・章・節	おもな内容	教科書ページ	本資料での掲載ページ
第3章	日本の諸地域		
序説	学ぶにあたって	166	28
第1節	九州地方		
	イラスト地図	167	
	写真で眺める九州地方	168-169	
	(本文ページ)	170-179	11-12
	学習を振り返ろう	180-181	
	未来に向けて	182	
第2節	中国・四国地方		
	イラスト地図	183	
	写真で眺める中国・四国地方	184-185	
	(本文ページ)	186-195	42
	学習を振り返ろう	196-197	
	未来に向けて	198	
第3節	近畿地方		
	イラスト地図	199	9, 19
	写真で眺める近畿地方	200-201	7-8, 20
	(本文ページ)	202-211	11-12, 21-24, 49-50, 51
	学習を振り返ろう	212-213	25
	アクティブ地理	214-215	39-40
	未来に向けて	216	26
第4節	中部地方		
	イラスト地図	217	
	写真で眺める中部地方	218-219	
	(本文ページ)	220-229	42
	学習を振り返ろう	230-231	
	未来に向けて	232	
第5節	関東地方		
	イラスト地図	233	10
	写真で眺める関東地方	234-235	
	(本文ページ)	236-245	42
	学習を振り返ろう	246-247	
	未来に向けて	248	42
第6節	東北地方		
	イラスト地図	249	
	写真で眺める東北地方	250-251	
	(本文ページ)	252-261	42
	学習を振り返ろう	262-263	
	未来に向けて	264	
第7節	北海道地方		
	イラスト地図	265	
	写真で眺める北海道地方	266-267	
	(本文ページ)	268-277	42
	学習を振り返ろう	278-279	
	未来に向けて	280	
	アクティブ地理	281-282	39-40
第4部	地域のあり方		
序説	学ぶにあたって	283	
第1章	地域のあり方	284-293	44

『社会科 中学生の地理』著作関係者

※所属・肩書きは令和6(2024)年3月時点のもの

監修者

加賀美 雅弘 東京学芸大学名誉教授
 米田 豊 兵庫教育大学名誉教授
 志村 喬 上越教育大学教授
 吉田 剛 宮城教育大学教授

著作者

池下 誠 東京都公立中学校元教諭
 池田 康二 東京都公立中学校元教諭
 梅田 克樹 千葉大学准教授
 漆間 浩一 鎌倉女子大学教授
 王子 明紀 兵庫県三田市立狭間中学校教頭
 大山 修一 総合地球環境学研究所教授
 大呂 興平 大分大学教授
 小岩 直人 弘前大学教授
 小島 泰雄 京都大学教授
 近藤 章夫 法政大学教授
 阪上 弘彬 千葉大学准教授
 立石 昌文 福岡県公立中学校元教諭
 土屋 純 関西大学教授
 堤 純 筑波大学教授
 永田 忠道 広島大学准教授
 中野 英水 東京都板橋区立中台中学校副校長
 仁平 尊明 東京都立大学教授
 武者 忠彦 立教大学教授
 山本 葉月 東京都立立川国際中等教育学校主任教諭
 渡邊 智紀 お茶の水女子大学附属中学校教諭
 株式会社帝国書院

編集委員

赤坂 寅夫 東京都公立中学校元校長
 井上 昌善 愛媛大学准教授
 宇野 彰人 東京都公立中学校元校長
 梅津 正美 鳴門教育大学理事・副学長
 江口 勇治 筑波大学名誉教授
 鴛原 進 愛媛大学教授
 佐野 金吾 東京都公立中学校元校長
 土屋 武志 愛知教育大学特別教授
 濱野 清 兵庫教育大学教授
 松岡 尚敏 宮城教育大学教授
 吉村 功太郎 宮崎大学教授

編集協力者

赤井 範子 京都市教育委員会指導主事
 泉宮 一喜 東京学芸大学附属小金井中学校教諭
 井上 弘毅 神奈川県横浜市立金沢中学校主幹教諭
 井寄 芳春 大阪府立咲くやこの花中学校校長
 植田 純生 徳島県公立中学校元教諭
 荻原 拓 長野県安曇野市立堀金中学校教諭
 川中子 靖 栃木県宇都宮市立横川中学校教諭
 菊池 徹 神奈川県横須賀市立久里浜中学校総括教諭
 岸 崇 新潟大学附属長岡中学校教頭
 紀洲谷 浩市 兵庫県神戸市立押部谷中学校校長
 木下 浩子 京都府舞鶴市立白糸中学校教頭
 最所 健太 福岡県福岡市立吉塚中学校主幹教諭
 佐藤 愛 宮城県仙台市立第一中学校教諭
 七里 広志 滋賀県草津市立老上中学校教諭
 島津 虎史 静岡県浜松市立東部中学校教諭
 高橋 範久 香川大学教育学部附属高松中学校教諭
 高山 正樹 山形県山形市立第六中学校教諭
 田村 俊司 静岡県静岡市立大里中学校教諭
 橋本 一秋 埼玉県新座市立第五中学校教諭
 樋口 大祐 三重県四日市市立橋北中学校教頭
 平山 裕人 コロボックル学びの家
 宗像 玲 パナマ日本人学校校長
 渡辺 康弘 福島県公立中学校元校長

特別支援教育に関する監修・校閲者

柏倉 秀克 桜花学園大学教授
 丹治 達義 筑波大学附属視覚特別支援学校教諭

防災教育に関する監修・校閲者

矢守 克也 京都大学教授

中学校 社会科Webのご案内

中学校社会科Webは
こちら



<https://www.teikokushoin.co.jp/jhs/>

帝国書院 中学校 検索

帝国書院 中学校社会科教科書のご案内

教科書 QRコンテンツ 教師用指導書 デジタル教科書・教材 Teikoku LABO

社会科で
未来を拓く

令和7（2025）年度版
教科書のご案内

地図帳	地理	歴史	公民
詳しく見る	詳しく見る	詳しく見る	詳しく見る

帝国書院の新しい教科書と、関連する教材をご紹介します。

令和7(2025)年度版 **内容解説資料**

部分サンプル

帝国書院

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-29
TEL 03-3262-4795(代)
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>
©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024

本資料に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。
本資料は、環境にやさしい再生紙・植物油インキを使用しています。
本資料の無断転載・複製を禁じます。